

沼田西部地区遺跡群Ⅱ

AKA SAKA

赤坂遺跡

SE TO DA

背戸田遺跡

昭和63年度・平成元年度 県営ほ場整備事業
沼田西部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

沼田市教育委員会





赤坂遺跡空中写真



赤彩された弥生土器（赤坂遺跡8号住居跡出土）

序

沼田市では、市内各地区にわたり営農の近代化と発展を期するため、区画整理を実施し、農用地の集団化を図ることを目的とする土地改良事業が着実に進められております。沼田市西部の利根川右岸の上川田町・下川田町内で進められている県営ほ場整備事業沼田西部地区も昭和62年度以来5年目を迎え、川田地区の景観も大きく変わりつつあります。本地域は、河岸段丘上の中山間地帯を中心に埋蔵文化財が分布しています。このため、工事に先立って埋蔵文化財の記録を残すための発掘調査が並行して行われています。

本書は、昭和63年度・平成元年度に発掘調査をしました赤坂遺跡、背戸田遺跡の報告書ですが、縄文時代から平安時代にわたる遺構・遺物が発見されています。

発掘調査から報告書作成に至るまで、沼田土地改良事務所、市農政関係部局、地元関係者等からご指導、ご協力を賜りました。心から感謝の意を表するとともに、調査に直接たずさわれた方々の労をねぎらい序といたします。

平成4年3月

沼田市教育委員会

教育長 荻野明正

例 言

1. 本報告書は、昭和63年度・平成元年度県営は場整備事業沼田西部地区に伴う沼田西部地区遺跡群の発掘調査報告書である。

2. 遺跡の所在地は、以下のとおりである。

赤坂遺跡	群馬県沼田市上川田町 ^{かみかわ だまら} 字赤坂 ^{あかざか} 260、261、262、263、264、265番地
	# 字上原 ^{かみはら} 甲2570、乙2570、2571、2572、2576番地
	# 字岩根 ^{いわね} 347番地外
背戸田遺跡	群馬県沼田市上川田町 ^{かみかわ だまら} 字背戸 ^{せうと} 田3195、3196、3197、3198、3199、3207、3208、3209、3210、3212番地外

3. 発掘調査とそれに伴う整理作業については、沼田市教育委員会が国・県補助事業及び沼田土地改良事務所の費用負担による事業として実施した。

4. 調査期間は以下のとおりである。

赤坂遺跡	昭和63年8月5日～昭和63年10月29日
背戸田遺跡	平成元年7月19日～平成元年12月2日

なお、整理作業・報告書作成は断続的に平成4年3月まで行った。

5. 調査・整理組織は以下の通りである。

〈昭和63年度〉

教 育 長 佐藤国利
 教 育 次 長 松井誠二
 社会教育課長 藤井正久
 社会教育係長 斎藤一章
 社会教育主事 小池雅典（担当）
 埋文囑託員 宮下昌文（担当）

〈平成元年度〉

教 育 長 佐藤国利
 教 育 次 長 松井誠二
 社会教育課長 藤井章二
 文化財保護主事 都丸 肇（担当）
 社会教育主事 小池雅典（担当）
 主 事 宮下昌文（担当）

〈平成3年度〉

教 育 長 荻野明正
 教 育 次 長 松井誠二
 社会教育課長 角田巻由
 文化財保護係長 鳥羽昭男
 社会教育主事 小池雅典
 主 事 宮下昌文（担当）

6. 本書の執筆、編集は宮下が行った。

7. 調査における記録、出土遺物は、一括して沼田市教育委員会にて保管している。

8. 発掘調査及び本書の作成にあたり、次の方々からご指導ご協力をいただいた。記して感謝申

上げます。(順不同・敬称略)

群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県埋蔵文化財調査事業団、群馬県沼田土地改良事務所、沼田市役所経済部農地整備課、沼田西部土地改良区、水田 稔、石北直樹、飯島義雄、神谷佳明、長谷川福次、早田 勉、久保誠二、飯島静男、有限会社外山測量、株式会社測研、シン航空写真株式会社、金子砕石有限会社

凡 例

1. 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「沼田」を使用した。
2. 第2図は、沼田土地改良事務所発行の2千5百分の1「県営は場整備事業沼田西部地区計画一般図」を使用した。
3. 遺構図中の方位は磁北を示している。
4. 図中に記載した断面基準線の数字は、海拔高である。
5. 遺構図の縮尺は以下のとおりである。なお、図中にスケールを付した。
遺跡全体図1/500 竪穴住居跡1/60 掘立柱建物跡1/80 落し穴・土壇1/60
溝跡(土層断面) 1/80
6. 遺物図の縮尺は以下のとおりであるが、一部異なる場合は図中にスケールを付して示した。
土器1/3 石器1/3

目 次

序	
例 言	
凡 例	

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の位置と環境	1
IV 層序	4
V 赤坂遺跡の調査	7
1 遺跡の概要	7
2 竪穴住居跡(弥生時代・平安時代)	7
3 土壌	29
4 溝跡	36
VI 背戸田遺跡の調査	41
1 遺跡の概要	41
2 竪穴住居跡	41
3 落とし穴	73
4 土壌	73
5 掘立柱建物跡	76
6 遺構外出土遺物	79
VII まとめ	83

写真図版

I 調査に至る経緯

県営は場整備事業沼田西部地区は、昭和62年着手となり、7ヵ年計画で事業が進行中である。沼田市教育委員会は、これに伴い昭和62年度から埋蔵文化財の発掘調査を実施してきた。昭和63年度の土地改良事業は沼田市上川田町字赤坂、字上原について着工することになり、埋蔵文化財の取り扱いについて、市教育委員会では文化財保護の立場から、事業主体である群馬県沼田土地改良事務所及び市農政課（現農地整備課）と協議を行った。その結果、道水路となる部分について調査を行うこと。やむを得ず切り土を行う部分については面的な調査を実施することで合意し、記録保存のため発掘調査を実施することとなった。また、平成元年度の工事地区（上川田町字背戸田）についても、63年度と同様の経過により発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。

II 調査の方法と経過

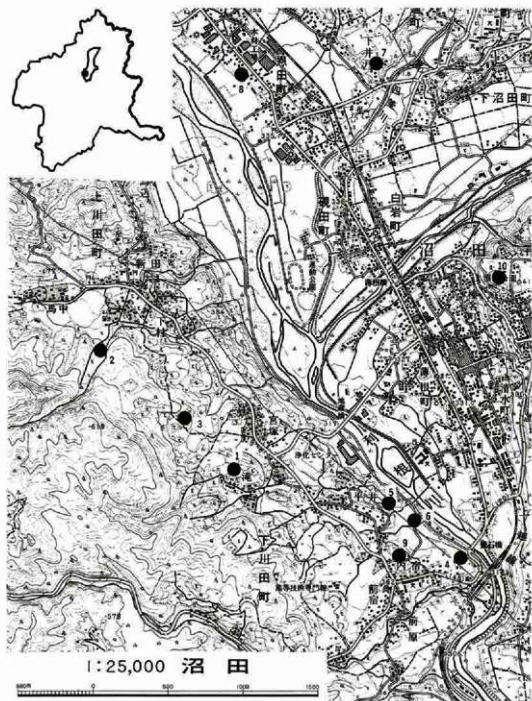
試掘トレンチは道水路部分について設定し、重機を使用して遺構・遺物の確認を行った。本調査は、試掘調査の結果をもとに道水路部分及び切り土等で遺構に影響をおよぼすと判断される部分については拡張して調査区を設定した。

赤坂遺跡は、調査地内全体を任意の10m四方のグリッドで区割りし、調査の基本単位とした。グリッドの呼称は北西隅の座標値とすることとし、北から南へアルファベットでA、B、C、……………、R、西から東へ算用数字で0、10、20、……………、90と呼ぶことにした。背戸田遺跡では、調査地内全体を磁北方向に合わせて5m四方のグリッドで区割りした。グリッドの呼称は北西隅の座標値とすることとし、北から南へアルファベットでY、y、Z、z、A、a、……………、H、西から東へ算用数字で0、5、10、15、……………、90と5m進法で呼ぶことにした。

表土掘削には重機を使用した。検出された遺構・遺物については、写真撮影、遺構平面図・遺物分布図・土層断面図の作成を行った。図面の縮尺は1/10、1/20、1/40で、調査区全体図は1/200で50cmのコンタを入れて作図した。

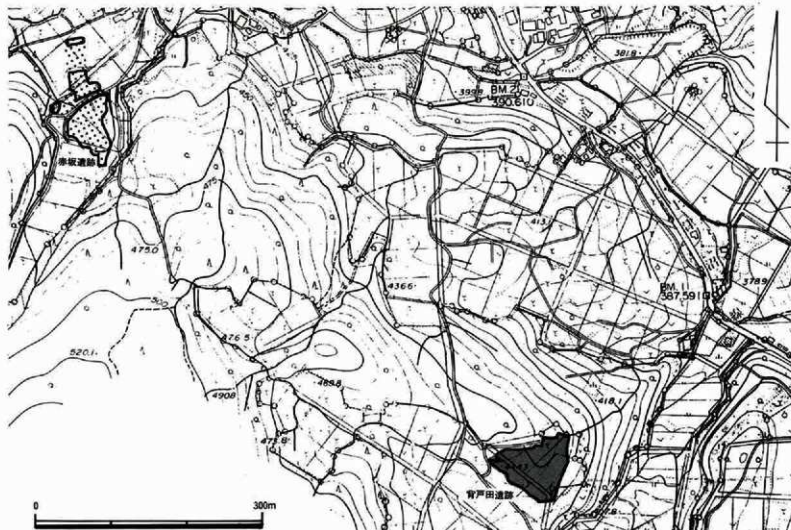
III 遺跡の位置と環境

沼田西部地区遺跡群は、沼田市上川田町に所在する。沼田市の南西部に位置する。東南流する利根川右岸に発達した河岸段丘面上から西側に連なる山間地にかけての丘陵地帯に遺跡が数多く点在している。また、利根川に向かって東流する大小の沢に沿う谷と、沢に侵食され複雑に地形変化する丘陵性の地形を呈している。赤坂遺跡は、丘陵地と傾斜地の地形上の変換点に立地し、南西から北東方向にかけて緩やかに傾斜している。標高438m～457mで遺跡の東側には前原沢が南から北へ流れている。現況は桑園・畑である。背戸田遺跡は丘陵地の日当たりの良い南東斜面に立地している。標高444m～455mで現況は桑園・畑である。



第1図 遺跡位置図

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1 滝遺跡 | 2 赤坂遺跡 | 3 菅戸田遺跡 |
| 4 下川田下原遺跡 | 5 下川田平井遺跡 | 6 下川田五反田遺跡 |
| 7 陣防平遺跡 | 8 旧薄根村2号古墳 | 9 川田城址 |
| 10 沼田城址 | | |



第2図 遺跡地周辺の地形 (1:5,000)

次に、周辺の主な遺跡を概観する。

縄文時代になるといくつかの遺跡が確認されるようになる。立地的には利根川右岸の段丘面及び丘陵地帯の緩傾斜地に位置するものが大半である。主に前期が中心で、滝遺跡(1)、下川田下原遺跡(4)等が発掘調査されている。

弥生時代には、後期になってから多くの遺跡が認められる。小河川の開折谷上に広がる台地の縁辺に主に立地する。後期(樽式期)の集落が赤坂遺跡(2)、下川田平井遺跡(5)で検出された。

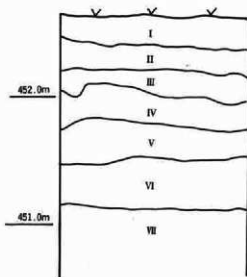
古墳時代の集落の存在は今のところ確認されていない。古墳は利根川左岸の低位河岸段丘面上に円墳を主体とする古墳群が分布していたが、破壊され消滅してしまったものも多い。生産遺跡として下川田五反田遺跡で、FP(榛名山ニッ岳形成期軽石)下の水田跡が検出されている。

奈良時代の遺跡は、現在周辺地では確認されていないが、平安時代になると竪穴住居跡が赤坂遺跡、下川田平井遺跡で検出されている。また、下川田五反田遺跡で浅間山B軽石下の水田跡が検出されている。

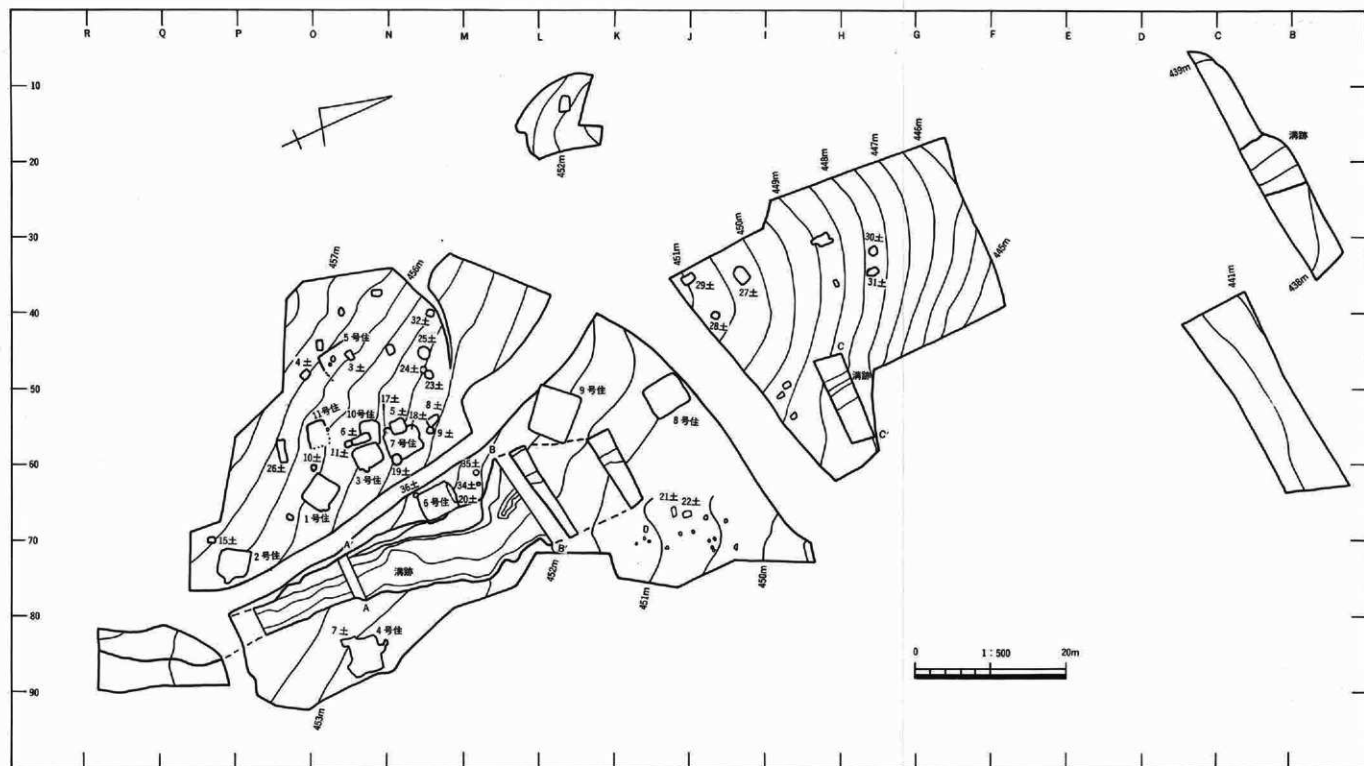
IV 層 序

沼田西部地区遺跡群の基本層序は第3図のとおりである。図は比較的土層の安定している背戸田遺跡のC-40グリッド付近のものを示したが、同遺跡の南側半分及び赤坂遺跡の大部分では、表土(1層)下ですぐIV層(黄褐色土層)となる。以下に各層の特徴について述べる。

I層 黒褐色土	表土。現耕作土。FP(榛名山ニッ岳形成期軽石)を多量に含む。
II層 暗褐色土	粘性ややあり。FPをわずかに含む。
III層 褐色土	粘性、しまりあり。この層の上面で遺構が確認される。縄文時代の遺物を包含する。
IV層 黄褐色粘質土	ローム層。粘性、しまりあり。
V層 黄褐色土	5 mm 大の黄色軽石を多量に含む。
VI層 暗灰褐色粘質土	粘性しまりが非常に強い。通称「川田土」と呼ばれ、明治時代から第二次世界大戦後まもないころまで石鹼の代用品として採掘されていた。
VII層 暗灰褐色土	地山の礫層



第3図 基本土層図



第4図 赤坂道跡全体図

V 赤坂遺跡の調査

1 遺跡の概要 (第4図)

本遺跡は沼田市上川田町字赤坂、字上原、字岩根の3小字にまたがっているが、遺構の検出密度の濃さと調査区の面積で主体を占める字赤坂の名称を取り、赤坂遺跡と呼称した。調査面積は約5,000m²である。

本遺跡は縄文時代前期、弥生時代後期、平安時代にわたる複合遺跡である。縄文時代では前期を主体としており、土壌30基と遺物集中地点が数ヵ所検出された。遺物集中地点は耕作によりかなり攪乱を受けており、本来は遺構が存在していた可能性がある。弥生時代では後期の竪穴住居跡2軒を検出した。2軒とも焼失住居であった。平安時代では竪穴住居跡9軒と溝跡1条を検出した。このうち4軒の住居跡では鍛冶工房とみられる炉・土壌や遺物を検出している。また溝跡の覆土の中位には浅間山B軽石(As-B、1108(天仁元)年に噴火したといわれている)が堆積していた。

2 竪穴住居跡

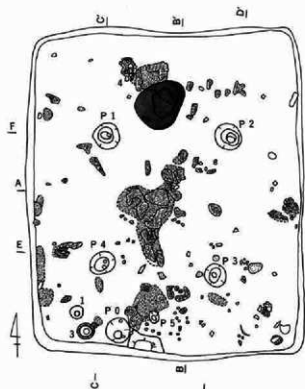
(弥生時代)

8号住居跡 (第5図、第6図)

J-50グリッドに位置する。南側に隣接して9号住居跡がある。平面形は長方形で(5.18m×4.30m)を呈し、壁高は40cmである。床面はローム地床で固くしまっている。ピットは5基検出された。P1～P4は深さも規則的で主柱穴と思われる。P5は南壁際の高まりと関連した梯子穴と考えられる。炉は主柱空間外にある地床炉で、燃焼度は高い。貯蔵穴P0は南壁際にある。床面上には屋根材と思われる炭化材が多数遺存しており、焼失住居である。遺物は、樽式系の壺、甕、高坏、赤井戸系の甕の破片が数点、管玉が1点出土している。

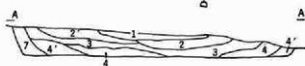
9号住居跡 (第7図、第8～10図)

K-50グリッドに位置する。東側に隣接して溝跡が走行している。平面形は長方形(6.44m×5.82m)で、壁高は40cmである。床面はローム地床で固くしまっており、ほぼ平坦であるが、貯蔵穴P0の周囲、東コーナー及び北コーナーに若干の高まりが存在する。ピットは8基検出された。P1～P4は70cm～90cmと深く主柱穴と思われる。P5は位置的にみて梯子穴と考えられる。炉は主柱空間外にある地床炉で南西側に一石を据えている。床面上には炭化材が残存していた。覆土は最上層にFP主体土、下層に炭化物を含む暗褐色土が堆積している。(覆土分層註記) 1層FPを多量に含む黒色土。2層少量のローム粒子を含む暗茶褐色土。3層少量のローム粒子を含む暗褐色土。4層炭化物を含む暗褐色土。5層やや多量のローム粒子・炭化物を含む暗褐色土。



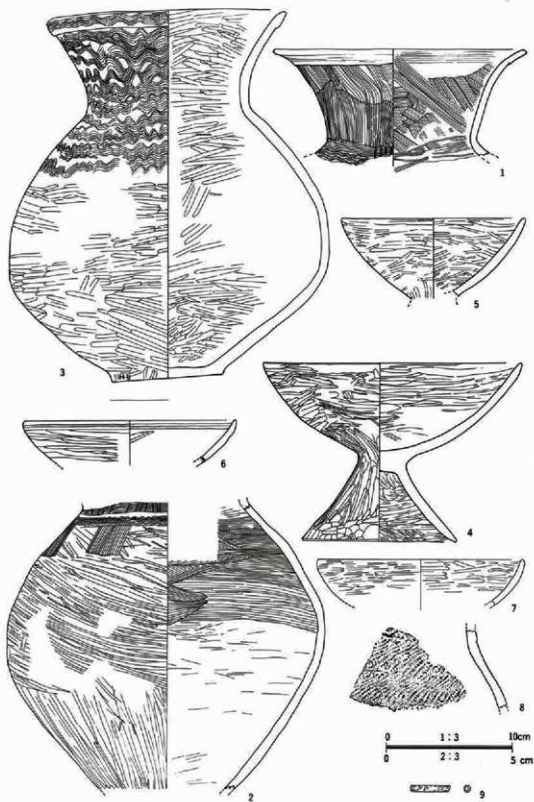
8号住居跡断面図

- | | |
|------------|---|
| 1層 黒色土 | FP 多量に含む。
粘性強い。 |
| 1'層 暗灰褐色土 | FP まばらに含む。
炭化物若干、ローム粒
子若干含む。 |
| 1''層 暗灰褐色土 | ローム粒子若干、炭化
物若干含む。 |
| 2層 茶褐色土 | ローム粒子若干、炭化
物若干含む。 |
| 2'層 暗褐色土 | ローム粒子若干、炭化
物若干含む。 |
| 3層 暗褐色土 | ローム粒子まばら、炭
化物多量に含む。 |
| 4層 暗褐色土 | ローム粒子、ロームブ
ロック多量に含む。炭
化物多量、焼土若干
含む。 |
| 4'層 暗褐色土 | ローム粒子、ロームブ
ロック4層よりも多
量に含む。炭化物多
量、焼土まばらに
含む。 |
| 5層 暗褐色土 | ローム粒子まばら、炭
化物多量に含む。 |
| 6層 暗黄褐色土 | ローム粒子、ロームブ
ロック多量に含む。炭
化物若干含む。 |
| 7層 暗褐色土 | 参味をおびている。
ローム粒子、ブロック
若干、焼土、炭化物
まばらに含む。 |
| 8層 暗褐色土 | 炭化物、焼土若干含む。 |
| 9層 暗赤色土 | 焼土、炭化物多量。
ローム粒子若干含む。 |

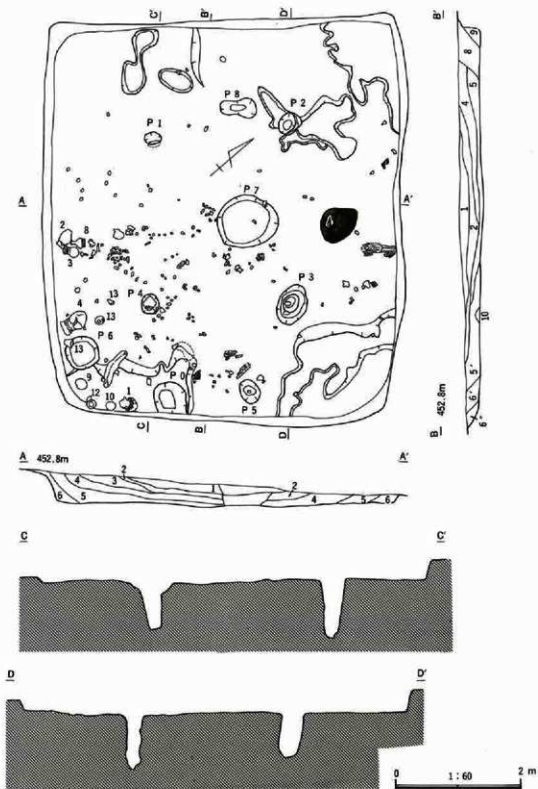


0 1:50 20m

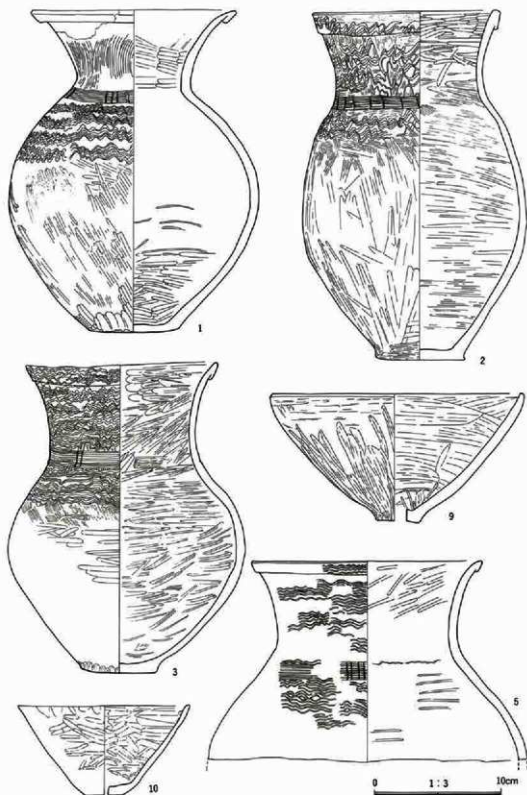
第5図 8号住居跡



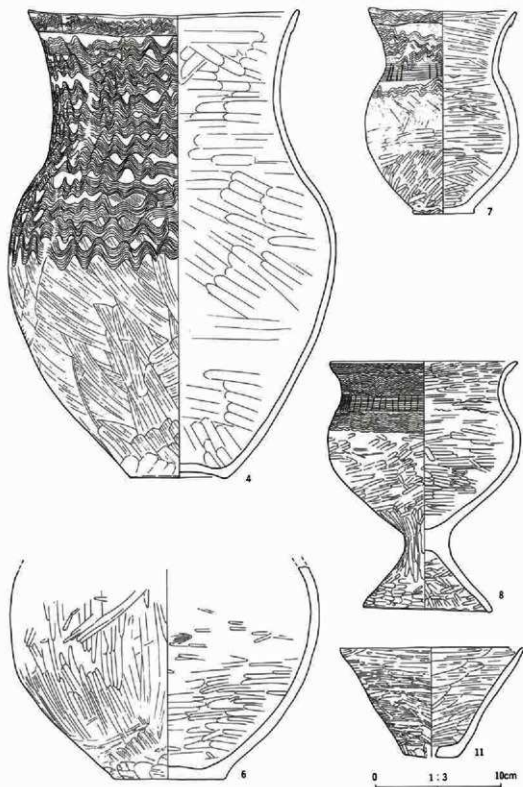
第6図 8号住居跡出土遺物



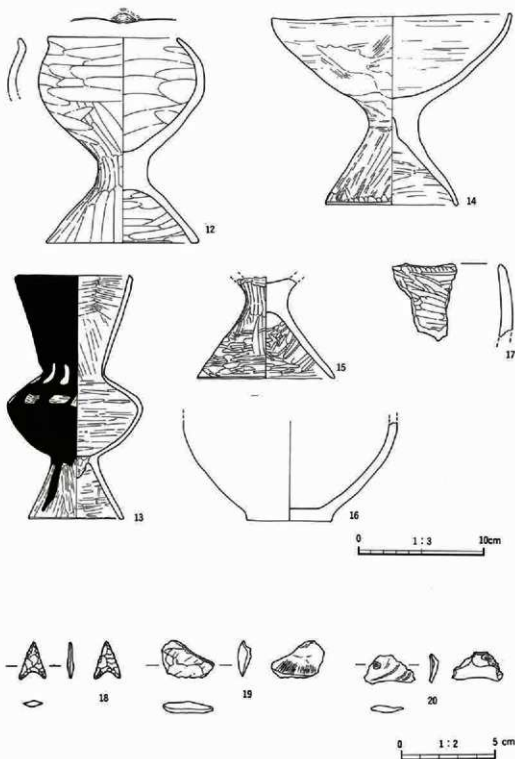
第7图 9号住居跡



第8図 9号住居跡出土遺物(1)



第9図 9号住居跡出土遺物(2)



第10図 9号住居跡出土遺物(3)

遺物観察表 (1)

遺物番号	器 種	出土位置 遺存状況	法量 (cm) () は推定	胎土・焼成・整形の特徴	文 様
8 住-1	弥生土器 壺	床直 口縁部から頸部	口径 20.3 頸部径 12	白色砂粒含む。堅緻。黄褐色。折返し口縁。 内面横位。外面縦位のハケ施で。	頸部→9条1単位4連止左まわり 波状文。肩幅波状文。
8 住-2	弥生土器 壺	覆土中 胴部のみ完全	頸径 13.3 胴部径 25.3	砂粒含む。堅緻。外面淡褐色。内面赤褐色。 外面口縁から胴部横筋き、その上から縦方向 刷毛整形。底部上縦方向刷毛施で整形。内面 胴上部横方向筋目整形。	頸部多連層状文右まわり。頸部 下9条1単位肩幅波状文。波状 文下22伏1単位の肩幅懸垂文。
8 住-3	弥生土器 甕	床直 完形	口径 15.1 頸部径 12.9 胴部径 25.6 底径 8.9 器高 29.1	砂粒含む。普通。暗褐色。折返し口縁。口縁 は大きく外反する。胴部は球形を呈し、中位 やや下部に最大径を有する。外面胴中位より 下及び内面は荒磨き。	口縁→胴上部横筋波状文。波状 文11段、右回り原形7条。
8 住-4	弥生土器 高杯	床直 完形	口径 20.6 器高 14.2 裾部径 12.5 (口径) 3.9	微砂粒含む。堅緻。黒褐色土。外面荒磨き。 内面環部荒磨き、裾部荒磨き。	
8 住-5	弥生土器 高杯	床直 胴部のみ完全	口径 14.6	細砂粒を多量に含む。堅緻。暗褐色。体部や や内湾して立ち上がる。内外面とも荒磨き。	
8 住-6	弥生土器 高杯	覆土中 杯部破片	口径 (17.0)	細砂粒を多量に含む。堅緻。外面暗褐色。内 面灰褐色。体部は直線的に立ち上がり、口縁 部やや内湾する。内外面とも荒磨き。	
8 住-7	弥生土器 高杯	覆土中 杯部破片	口径 (16.4)	砂粒を多量に含む。堅緻。褐色。体部やや内 湾みに立ち上がる。内外面とも荒磨き。	
8 住-8	弥生土器 甕	覆土中 胴部破片		砂粒含む。堅緻。暗褐色。内面荒磨き。	1. 耳文による施文
8 住-9	管玉	覆土中 完形	直径 0.2 長さ 1.4	石材：珉質頁岩。	
9 住-1	弥生土器 壺	覆土 口縁部一部欠損	口径 16.3 頸部径 9.9 胴部径 19.8 底径 7.2 器高 25.4	砂粒含む。堅緻。淡褐色土。折返し口縁。口 縁部大きく外反する。胴部は球形を呈し、中 位に最大径を有する。外面→口縁部から胴部 に縦刷毛。胴部中位より下荒磨き。内面→口 縁部から胴部と胴下半に荒磨き。	頸部→8条1単位3～4連止層 状文。胴部上半8条1単位の波 状文4段施文。
9 住-2	弥生土器 甕	床直 完形	口径 15 頸部径 12 胴部径 17.8 底径 7.1 器高 27.7	微砂粒含む。堅緻。黒褐色土。外面口縁→胴 部縦刷毛整形。胴下部、縦方向荒磨き。内 面横位の刷毛整形後上から横方向荒磨き。	頸部6条1単位の波状文右まわり。 口縁から胴上部横筋波状文。
9 住-3	弥生土器 甕	床直 完形	口径 15.3 頸部径 11.7 胴部径 18.9 底径 6.2 器高 24.5	石英粒を含む。堅緻。褐色。折返し口縁。胴 部中央に最大径をとる。内面荒磨き。外面、 縦方向に刷毛施で横位の荒磨き。	口縁から胴上部は横筋波状文。 頸部は10条1単位層状文。左ま わり2連止7ヶ所。
9 住-4	弥生土器 甕	床直 完形	口径 21.6 頸部径 13.2 胴部径 27.0 底径 8.8 器高 36.8	砂粒含。堅緻。内外面明褐色。折返し口縁。 口縁部直線的に立ち上がる。胴部上半に最大 径を有する。外面刷毛調整。内面荒磨き。上 げ底。	口縁部から胴部まで横筋波状文 (9条1単位) 12段。
9 住-5	弥生土器 甕	覆土 胴部下半欠損	口径 18.4 頸部径 14.4 胴部径 25.4	砂粒を多く含む。堅緻。外面暗褐色。内面淡 褐色。折返し口縁。内面横方向のへら磨き。	口縁から胴上部層状施文。口縁 波状文6段、頸部3連止め層状 文1段、胴部波状文3段、右回 り原形7条。
9 住-6	弥生土器 甕	覆土 胴部2/3	胴部径 24.5 底径 8.7	砂粒含む。堅緻。外面暗褐色。内面淡褐色。 胴部は球形を呈する。内外面とも荒磨き。	
9 住-7	弥生土器 小型甕	覆土 完形	口径 11.8 頸部径 9.0 胴部径 12.2 底径 4.9 器高 16.2	砂粒多量に含む。堅緻。外面暗褐色。内面 褐色。折返し口縁。口縁部やや外反気味に立 ち上がる。胴部は球形を呈し、中位に最大径 を有する。外面胴上半刷毛。胴下半荒磨き。 内面口唇・胴下半荒磨き。口縁→胴上部横刷毛	口縁から胴上部層状施文。口縁 波状文3段、頸部2～3連止め 層状文1段、胴部波状文1段、 右回り原形6条と8条。
9 住-8	弥生土器 付付甕	床直 完形	口径 15 頸部径 13 胴部径 15.4 (口径) 3.7 裾部径 10.3	細砂粒をやや多く含む。堅緻。褐色。折返し 口縁。外面荒磨き。内面荒磨き。	口縁から胴部に12条1単位波状 文。頸部に12条1単位多層状文。

遺物観察表 (2)

遺物番号	器 種	出土位置 遺存状況	・法量(cm) ()は推定	胎土・焼成・整形の特徴	文 様
9 住-9	弥生土器 甗	床直 完形	口径 20.2 底径 3.4 器高 10.3 口径 1.0	砂粒含む。普通。淡褐色土。体部は直線的に立ち上がり、口縁部やや内寄する。外面口縁部磨き、体下部磨ナデ。内面磨ナデ。底部に焼成前穿孔1個。	
9 住-10	弥生土器 甗	床上 5 cm 完形	口径 13.5 底径 3.0 器高 7.1 口径 0.7	細砂粒・白色粒子含む。堅緻。茶褐色。体部は直線的にひらき、口縁部わずかに内傾する。内外面とも磨ナデ。外面口唇部指による押圧痕。底部焼成前穿孔1個。	
9 住-11	弥生土器 甗	床直 完形	口径 14.6 底径 4.4 器高 9.7 口径 0.8	砂粒含む。堅緻。淡茶褐色。体部やや内寄後外反し、ほぼ直線的に開く。内外面とも磨ナデ。底部焼成前穿孔1個。	
9 住-12	弥生土器 台付 片口鉢	床直 完形	口径 10.4 くびれ 3.9 裾部径 12.2 器高 16.3	砂粒を多量に含む。やや軟質。外面黒褐色。内面茶褐色。体部外面へう削り、脚部へうなどで整形。内面へうなどで整形。注口1ヵ所。	
9 住-13	弥生土器 台付甗	覆土 完形	口径 8.8 頸部径 4.6 体部径 10.8 器高 19.2 裾部径 7.5	砂粒含む。やや軟質。褐色。外面頸上縦方向磨ナデ。口唇部と体部腹位の磨ナデ、脚部縦刷毛。内面磨ナデ。	遺物実測図中のスクリーントーンの部分が赤彩されている。外面→口縁と体下半は金面赤彩。胴部と脚部縦方向赤彩。内面→口縁上半のみ赤彩。
9 住-14	弥生土器 高環	覆土 ほぼ完形	口径 19.2 くびれ 4.0 裾部径 10.6 器高 15.2	微砂粒含む。堅緻。灰褐色。環部やや内寄気味に立上り、口縁部で直立する。脚部やや内傾して広がる。環部内外面とも磨ナデ。脚部外面磨ナデ。内面磨ナデ。	
9 住-15	弥生土器 台付甗	床直 脚部のみ	くびれ 3.3 裾部径 11.0	砂粒含む。堅緻。暗褐色。脚部ほぼ直線に広く。外面磨ナデ。内面磨ナデ。	
9 住-16	弥生土器 甗	覆土 胴部1/2	胴部径 17.1 底径 6.8	砂粒含む。堅緻。灰褐色。胴部は半球形を呈する。内外面とも調整不明瞭。	
9 住-17	縄文土器	覆土		小石・繊維を含む。普通。暗褐色土。	内外面とも甗状工具によるナデ
9 住-18	石皿	覆土		石材・黒色頁岩	
9 住-19	剥片	覆土		石材・黒曜石	
9 住-20	剥片	覆土		石材・黒曜石	

5'層炭化物を多量に含む暗褐色土。6層やや多量のローム粒子を含む暗褐色土で、やや多量の炭化物を含む6'層、少量の炭化物を含む6"層に細分できる。8層多量のローム・ローム粒子を含む暗黄褐色土。9層やや多量のローム・ローム粒子、少量の炭化物を含む暗黄褐色土。10層暗赤褐色土。遺物は、樽式系の甕、台付甕、台付片口鉢、甔が床面に横転、または傾斜して出土した。覆土中からは樽式系の壺、甕、高坏のほか、赤彩された台付埴が特筆される。その他黒曜石の石鏃、剥片が出土した。

(平安時代)

1号住居跡 (第11図、第18図)

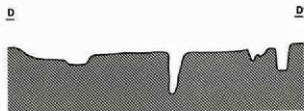
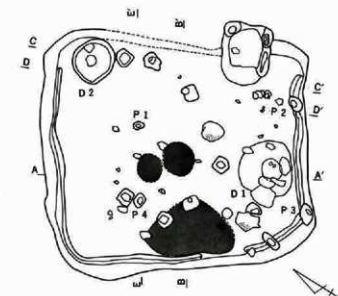
N-60グリッドに位置する。北側に隣接して3号住居跡がある。平面形は隅丸長方形(4.25m×3.94m)で、壁高は西壁で40cmであるが、北東部分は床面近くまで削平を受けている。カマドは東壁南寄りに構築され、遺存状況は悪い。床面はローム土の貼り床でほぼ平坦、壁周溝は三方で確認された。ピットは13基検出された。このうちP1~P4が主柱穴と思われる。土壌は2基が検出された。D1は周囲から直径30~40cm大の石が出土しており、また、周囲の床面が焼土化しているところから鍛冶工房炉と考えられる。遺物は、土師器甕、須恵器高台付皿、内黒土器の高台部が出土している。

2号住居跡 (第12図、第18図)

P-70グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形(現存長4.30m×現存長3.53m)で、壁高は南西コーナーで45cmであるが、北辺と東辺は床面まで削平を受けている。カマドは東壁南寄りに構築されていたが、削平のため遺存状況は悪い。貯蔵穴P0も削平が及んでおり残存状況は悪い。床面はローム土の貼り床でほぼ平坦、壁周溝は南辺と西辺で確認された。ピットは4基検出され、P1~P3が主柱穴と思われる。土壌は4基が検出された。D1は覆土中に焼土・灰等が混入していた。付近からふいごの羽口が出土しているところから鍛冶工房炉と考えられる。他のD2・3・4についても鍛冶工房炉とみられる。遺物は、須恵器坏、羽口、鉄製品(釘)等が出土している。

3号住居跡 (第13図、第18・19図)

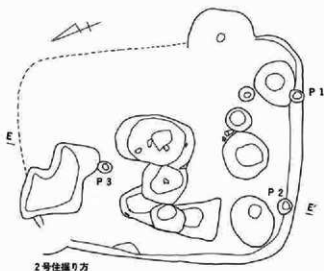
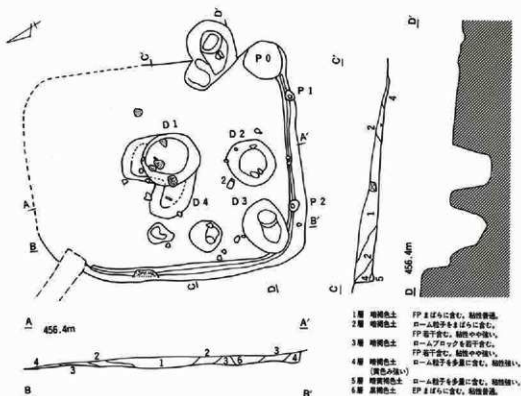
N-50グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形(3.88m×2.76m)で、壁高は西壁で40cmである。床面はローム土の貼り床でほぼ平坦。カマドは東壁南寄りに構築される。左袖に石を据えた石組カマドで、右側の石は抜かれていた。覆土中より羽釜が出土した。ピットは3基検出され、このうちP1が柱穴と思われるが、相対するピットは検出されなかった。土壌は4基が検出された。D1は住居居住時に使用されていた。残りの3基は床下土壌である。壁周溝は南辺と西辺で一部検出されたが不連続である。遺物は、須恵器羽釜、甕、土師器甕、鉄滓、打製石斧が出土している。西壁付近で10号住居跡と一部重複している。



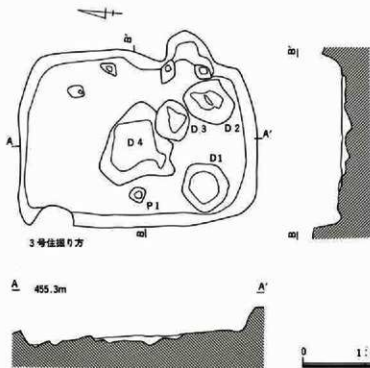
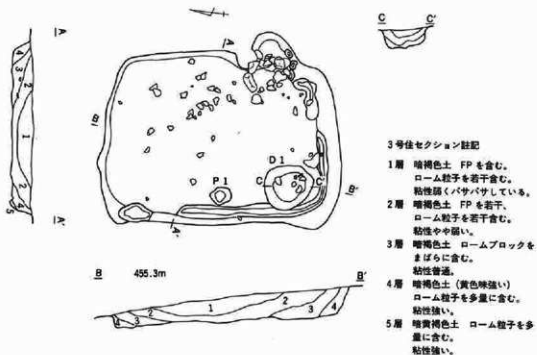
- | | |
|----------|----------------------------------|
| 1層 暗褐色土 | ローム粒子をわずかに含む。
粘性弱い。 |
| 2層 暗褐色土 | ローム粒子をまばらに含む。
粘性普通。 |
| 3層 暗褐色土 | ローム粒子をやや多く含む。
粘性やや強い。 |
| 4層 暗褐色土 | ローム粒子を若干含む。
粘性強い。 |
| 5層 暗褐色土 | ローム粒子をやや多く含む。
粘性ふつ。FP まばらに含む。 |
| 6層 暗黄褐色土 | ローム粒子を多量に含む。
粘性弱い。 |
| 7層 暗黄褐色土 | ローム粒子、ロームブロック
を多量に含む。粘性やや強い。 |

0 1:60 2 m

第11図 1号住居跡



第12図 2号住居跡



第13図 3号住居跡

4号住居跡（第14図、第19図）

N-80グリッドに位置する。西側に隣接して溝跡が走行している。平面形は隅丸長方形（3.90m×現存長3.50m）である。表土が薄かったため全体的に削平が及んでおり、特に壁面北辺の一部と東辺は削平がひどく正確な範囲の確認はできなかった。壁高は西壁で10cmと残存状況は悪い。床面はローム地床でほぼ平坦、掘り方はなかった。カマドは削平のため位置・形態は不明である。ピットは4基確認され、このうちP1・P2が位置的に柱穴と考えられる。土壌は3基検出された。D1は鍛冶関連、D2は位置的に貯蔵穴、D3は遺構に伴わない別の土壌と思われる。遺物は、須恵器の甕破片、土師器の小破片が出土している。南東コーナーで7号土壌と切り合っているが、新旧関係は不明である。

5号住居跡（第14図、第19図）

N-40グリッドに位置する。斜面に位置しているため、削平がひどく東側は完全に破壊されている。平面形は明確でなく現存規模は4.00m×1.22mである。壁高は西壁で10cmである。床面はローム地床である。カマドは位置・規模とも削平のため不明。ピットは1基検出されたが、柱穴になるかどうかは不明。土壌はD1が1基出土。床下土壌の可能性もある。周溝は西辺で部分的に確認されているのみである。遺物は灰釉陶器高台付碗が1個体出土した。3号土壌と重複しているが、新旧関係は不明である。

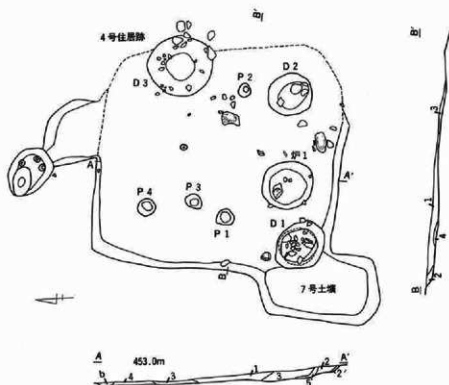
6号住居跡（第15図、第19・20図）

M-60グリッドに位置する。東側に溝跡が走行している。平面形は長方形（4.78m×4.04m）を呈し、壁高は南壁で32cmであるが、北辺と東辺は削平により残りが悪い。床面はローム土の貼り床でほぼ平坦、固く締まっている。カマドは東壁南寄りに構築されているが、削平がひどく残存状況は悪い。ピットは2基が検出され、P1・P2とも主柱穴と思われる。土壌は3基検出した。D1・D2は鍛冶関連、D3は性格不明だが、覆土中より炭化材が出土しているところから、住居使用時には存在していた可能性がある。炉は2基検出した。覆土中より羽口が出土していることや周辺の床面が焼土化していることから鍛冶炉と考えられる。周溝はほぼ一周していたようだが、北東付近では不明瞭になっている。遺物は須恵器甕、羽釜、内黒土器高台付碗、灰釉陶器高台付碗、ふいこの羽口等が出土している。北辺の一部を20号土壌に切られている。また、南西コーナーで36号土壌（縄文時代中期）を切っている。

炭化材が床面付近から多量に出土しているところから、火災による焼失住居と思われる。

7号住居跡（第16図、第20図）

M-50グリッドに位置する。平面形は長方形（4.50m×4.04m）である。全体的に削平がひどく壁高は南壁で9cmを測るほかは、ほとんど明確でない。床面はローム土の貼り床でほぼ平坦。カ

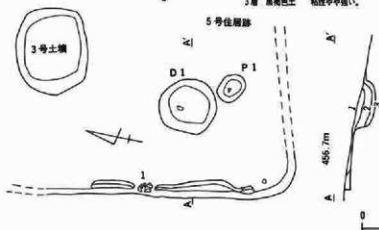


4号住居セクション註記

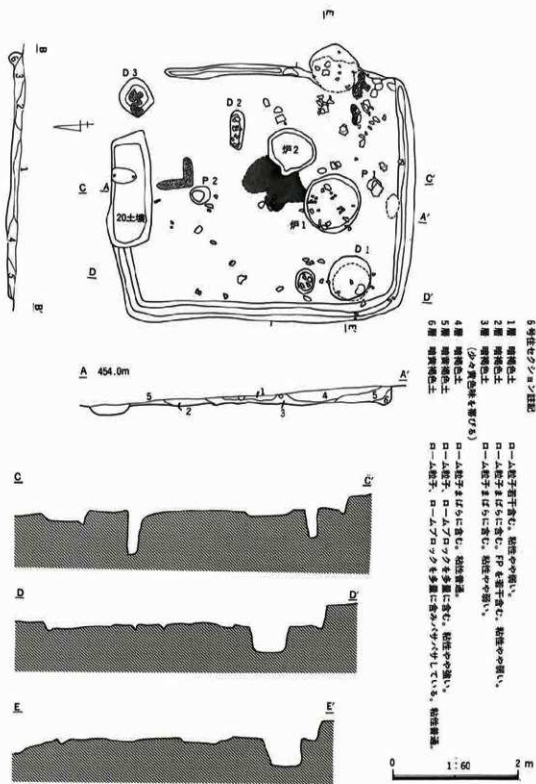
- | | |
|----------|-----------------------|
| 1層 暗赤褐色土 | ローム磁子、PPをまばらに含む。 |
| 2層 暗褐色土 | 暗褐色土、(1層より深い) |
| 3層 暗褐色土 | ローム磁子を2より多く含む。 |
| 4層 暗褐色土 | (その裏面がある) |
| 5層 暗赤褐色土 | ローム磁子、ロームアブリックを少量に含む。 |
| 6層 暗褐色土 | 暗褐色土、ローム磁子を少量に含む。 |

5号住居セクション註記

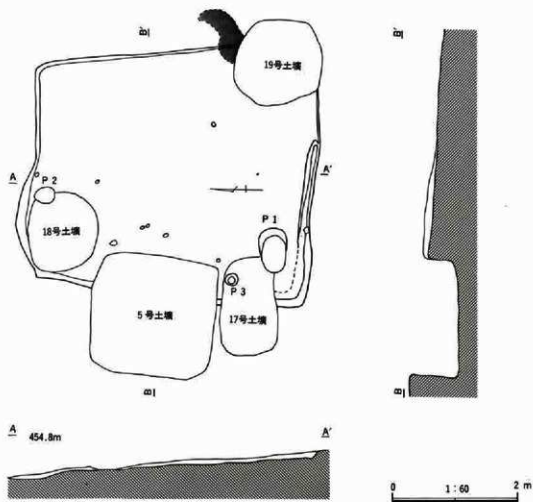
- | | |
|----------|--------------------|
| 1層 暗赤褐色土 | 焼土少量にローム磁子をまばらに含む。 |
| 2層 暗赤褐色土 | 暗褐色土、 |
| 3層 暗褐色土 | 暗褐色土、 |



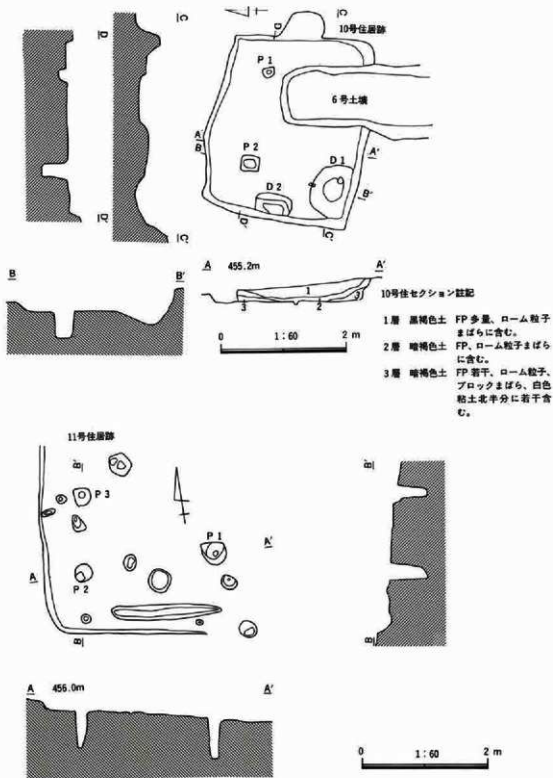
第14図 4・5号住居跡



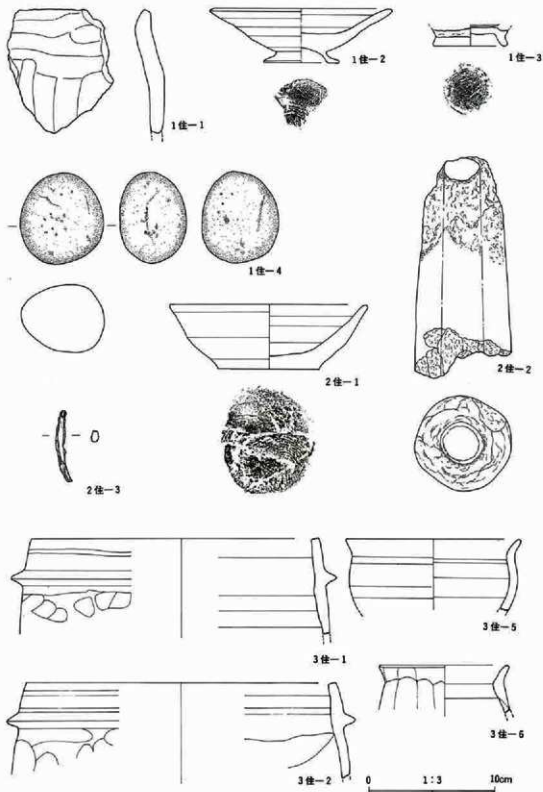
第15图 6号住居跡



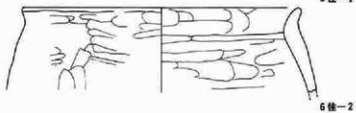
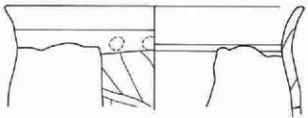
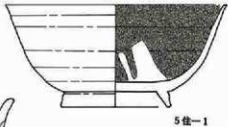
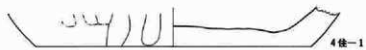
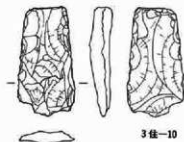
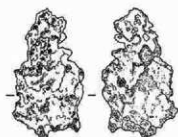
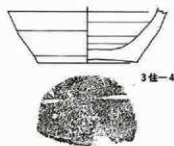
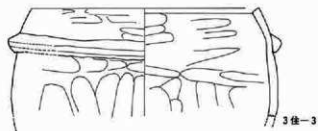
第16図 7号住居跡



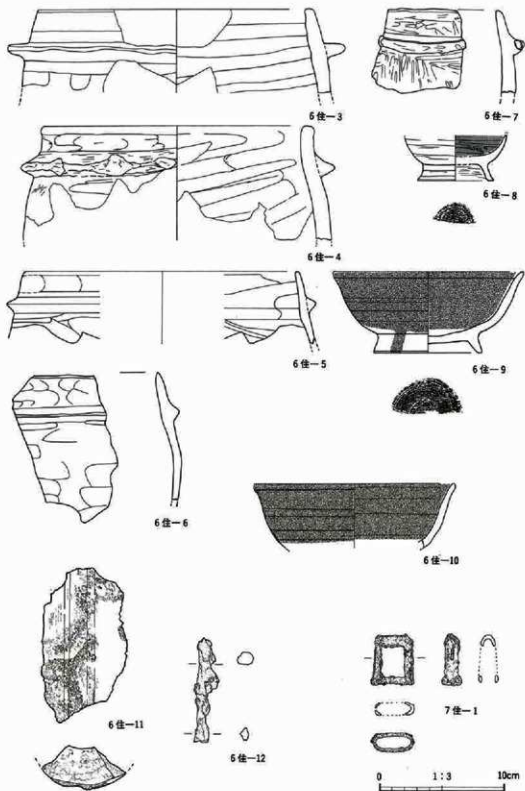
第17図 10・11号住居跡



第18図 1・2・3号住層跡出土遺物



第19図 3～6号住居跡出土遺物



第20図 6・7号住居跡出土遺物

遺物観察表 (3)

遺物 番号	器 種	出土位置 機序	法 量 (単位 cm) () は推定	胎土・焼成・色調	器形・装飾・調整の特徴	備 考
1住 1	土師器 土壺	覆土		砂粒を多量に含む。普通、 暗褐色。	口縁部は僅かに外反する。外面口縁部横ナデ。胴部縦筋開リ。内面口 縁部横ナデ。胴部横ナデ。	
1住 2	須恵器 高台付埴	覆土 1/3	口径 14.6 底径 6.0 高さ 5.1	砂粒を多量に含む。還元 胎。灰褐色。	体部は僅かに外反しながら開く。底部割取未知り後高台付加。	
1住 3	須恵器 高台付★	覆土 高台部のみ	底径 8.0	砂粒を含む。酸化胎。紫 黒。暗褐色。	高台部「ハ」字を開く。体部内面縦筋。内面黒色処理。	
1住 4	磨石	覆土	長 7.2 幅 6.6 重 925g	石材：流紋岩。		
2住 1	須恵器 杯	覆土 1/2	口径 15.8 底径 8.8 高さ 5.1	砂粒を多量に含む。酸化 胎。普通。暗褐色。	底部器内厚い。体部直線的に開く。底部割取未知り未調整。	
2住 2	須恵器 杯	覆土	底径 17.5 底径 7.7 口径 2.9	土製品。酸化胎。砂粒を 多く含む。	ほぼ円形をなし。基部は内湾している。先端部は全面がガラス質状に 溶出し発泡している。	
2住 3	釘	覆土	残存長 5.6			鉄製品
3住 1	須恵器 羽蓋	覆土 1/3	口径 22.0	砂粒を多量に含む。還元 胎。紫黒。灰褐色。	口縁部直線気味で内側に傾く。丸みのある断面三角形の筒。	
3住 2	須恵器 羽蓋	覆土 1/3	口径 24.6	砂粒を多量に含む。還元 胎。紫黒。灰褐色。	口縁部内湾気味に立ち上がる。丸みのある断面三角形の筒。胴部外 面縦筋開リ。	
3住 3	須恵器 羽蓋	覆土 1/2	口径 18.0	砂粒を含む。還元胎。紫 黒。灰褐色。	口縁部内湾気味に傾く。丸みのある断面形状の筒。胴部外面縦筋開リ。	
3住 4	須恵器 羽蓋	覆土 断面下部	底径 8.0	砂粒を多量に含む。還元 胎。紫黒。灰褐色。	胴部内湾気味に開く。上げ直。底部ナデ調整。	
3住 5	須恵器 羽蓋	覆土 1/4	口径 (14.0) 胴部径 (13.6)	微砂粒を含む。還元胎。紫 黒。灰褐色。	体部丸みを帯びる。口縁部内湾気味に外反する。	
3住 6	土師器 甕	覆土 1/4	口径 (10.4)	砂粒を多量に含む。紫黒。 暗褐色。	口縁部「く」字状に反り外反する。胴部外面縦筋開リ。	
3住 7	鉄器	覆土	長 10.3 幅 5.6 重 122g			
3住 8	鉄器	覆土	長 4.2 幅 3.9 重 31g			
3住 9	鉄器	覆土	長 5.6 幅 2.3 重 19g			
3住 10	打製石片	覆土		石材：黒色頁岩		
4住 1	須恵器 壺	覆土 流砂	底径 22.0	砂粒を多量に含む。酸化 胎。紫黒。暗褐色。	胴部ゆるやかに立ち上がる。	
4住 2	須恵器 壺	覆土 断面下部	底径 (11.0)	砂粒を多量に含む。酸化 胎。紫黒。暗褐色。	胴部直線的に開く。内外面横ナデ。	
5住 1	須恵器 高台付埴	床面 1/3	口径 17.4 底径 8.6 高さ 8.1	微砂粒を含む。還元胎。白 灰色。	体部縦やかに立ち上がり。口縁部まで直線的に開く。口唇部やや外反。 流け掛け施施。	
6住 1	土師器 土壺	覆土 口縁1/4	口径 (24.0)	砂粒を多量に含む。硬質。 暗褐色。	口縁部外反気味に開く。口縁部横ナデ。胴部縦筋開リ。	
6住 2	土師器 土壺	覆土 口縁1/4	口径 (22)	砂粒を多量に含む。紫黒。 暗褐色。	口縁部僅かに外反する。口縁部横ナデ。胴部縦筋開リ。	
6住 3	須恵器 羽蓋	覆土 口縁1/4	口径 (22.0)	砂粒を多量に含む。酸化 胎。紫黒。暗褐色。	口縁部直線的に内傾する。丸みの強い長めの筒。	
6住 4	須恵器 羽蓋	覆土	口径 20.2	砂粒を含む。酸化胎。紫 黒。暗褐色。	口縁部外反気味に立ち上がる。口唇部やや肥厚。やや内れた断面三角 形状の筒。胴部縦筋開リ。	
6住 5	須恵器 羽蓋	覆土	口径 (22.0)	砂粒を多量に含む。還元 胎。紫黒。暗褐色。	口縁部やや内湾気味に立ち上がる。やや小ぶりの断面三角形の筒。	
6住 6	須恵器 羽蓋	覆土		砂粒を多量に含む。還元 胎。普通。灰褐色。	口縁部やや肥厚し。直線的に内傾する。断面三角形の筒。	
6住 7	須恵器 羽蓋	覆土		砂粒を多量に含む。酸化 胎。紫黒。暗褐色。	口縁部やや内湾気味に立ち上がる。丸味の強い断面三角形の筒。外 面縦筋開リ。	
6住 8	須恵器 高台付埴	覆土 1/3	底径 (6.0)	微砂粒を含む。酸化胎。 紫黒。暗褐色。	体部内湾気味に立ち上がる。高台部「ハ」字に開く。体部内面縦筋。 内面黒色処理。	
6住 9	須恵器 高台付埴	覆土 1/3	口径 (15.2) 底径 (8.6) 高さ 6.4	砂粒を多量に含む。還元 胎。白灰色。	体部内湾気味に立ち上がり。口縁部でやや外反する。流け掛け施施。	
6住 10	須恵器 高台付埴	覆土 1/3	口径 (16.0)	砂粒を含む。紫黒。白灰 色。	体部内湾気味に立ち上がり。口縁部でやや外反する。口唇部わずかに 肥厚。流け掛け施施。	
6住 11	須恵器 高台付埴	覆土	残存長 12.3	土製品。酸化胎。砂粒を 多量に含む。	外面はガラス質状に溶出し発泡している。	
6住 12	釘	覆土	残存長 8.3			鉄製品
7住 1	金具	床面	長 4.8 幅 3.3 幅 1.1			鉄製品

マドは東壁南寄りに存在したと見られるが19号土壌により破壊されており、付近に焼土の広がり
が確認されるのみである。ピットは3基検出されたが、P 1とP 2が位置的に柱穴と思われる。
壁周溝は南辺で僅かな掘り込みを確認したのみである。遺物は、鉄製品が1点出土している。

5号土壌、17号土壌、18号土壌、19号土壌と重複しており、そのいずれにも切られている。

10号住居跡（第17図）

N-50グリッドに位置する。平面形は東西方向に長い長方形（2.98m×2.54m）で、壁高は南辺
で34cmである。床面はローム土地床で固く締まっている。カマドは位置・規模とも不明。ピット
は2基で、いずれも柱穴と思われる。土壌は2基検出された。遺物は出土しなかった。6号土壌
に切られている。3号住居跡とも重複関係にあるが、新旧関係は不明である。

11号住居跡（第17図）

O-50グリッドに位置する。北辺、東辺は完全に削平されており、現存規模は3.00m×2.96mで
ある。壁高は西壁で14cmである。床面はローム土地床ではほぼ平坦。カマドは位置・形態とも不明
である。ピットは13基検出した。このうち、P 1～P 3は掘り込みが深く主柱穴と思われる。周溝
は南辺で壁面から12cmほど内側に入ったところで検出した。遺物の出土はなかった。

3 土 壌（第21～23図、第24図）

本遺跡から出土した土壌は全部で30基である（1・2・12・13・14・16号土壌は欠番）。このう
ち、遺物を伴出する土壌は11基、縄文時代の土壌は10基、落し穴1基、袋状土壌2基、中・近世
の土壌は2基、他は時代が確定できなかった。

3号土壌

（検出区）N-40グリッド。（規模）長径137cm、短径90cm、深さ30cm（形状）楕円形。

4号土壌

（検出区）O-50グリッド。（規模）長径145cm、短径95cm、深さ32cm（形状）楕円形。（出土
遺物）中世の「かわらけ」1点。

5号土壌

（検出区）M-50グリッド。（規模）長径241cm、短径180cm、深さ75cm（形状）隅丸方形。7
号住と重複。

6号土壌

（検出区）N-50グリッド。（規模）長径221cm、短径104cm、深さ56cm（形状）長方形。（出
土遺物）黒色頁岩の打製石斧1点。

7号土壌

(検出区) N-80グリッド。(規模) 長径192cm、短径105cm、深さ26cm (形状) 長方形。4号住と重複、新旧関係不明。

8号土壌

(検出区) M-50グリッド。(規模) 長径205cm、短径100cm、深さ20cm (形状) 隅丸方形。

9号土壌

(検出区) M-50グリッド。(規模) 長径130cm、短径92cm、深さ40cm (形状) 円形。

10号土壌

(検出区) O-60グリッド。(規模) 長径105cm、短径55cm、深さ15cm (形状) 円形。

11号土壌

(検出区) N-50グリッド。(規模) 長径155cm、短径82cm、深さ35cm (形状) 円形。

15号土壌

(検出区) P-70グリッド。(規模) 長径115cm、短径65cm、深さ46cm (形状) 隅丸方形。

17号土壌

(検出区) N-50グリッド。(規模) 長径152cm、短径45cm、深さ42cm (形状) 円形。7号住と重複 (切っている)。(出土遺物) 黒色頁岩の剥片。

18号土壌

(検出区) M-50グリッド。(規模) 長径149cm、短径107cm、深さ30cm (形状) 円形。7号住と重複 (切っている)。

19号土壌

(検出区) M-50グリッド。(規模) 長径150cm、短径110cm、深さ55cm (形状) 円形。7号住と重複 (切っている)。

20号土壌 (検出区) M-60グリッド。(規模) 長径172cm、短径57cm、深さ21cm (形状) 円形。6号住と重複 (切っている)。

21号土壌

(検出区) M-50グリッド。(規模) 長径120cm、短径64cm、深さ48cm (形状) 円形。

22号土壌

(検出区) M-50グリッド。(規模) 長径75cm、短径54cm、深さ35cm (形状) 円形。(出土遺物) 黒色頁岩の剥片。

23号土壌

(検出区) M-40グリッド。(規模) 長径125cm、短径80cm、深さ62cm (形状) 楕円形 (袋状土壌)。(出土遺物) 縄文土器破片。

24号土壌

(検出区) M-40グリッド。(規模) 長径98cm、短径60cm、深さ27cm (形状) 円形。(出土遺物) 縄文中期土器片。

25号土壌

(検出区) M-40グリッド。(規模) 長径160cm、短径75cm、深さ33cm (形状) 円形。

26号土壌

(検出区) O-50グリッド。(規模) 長径335cm、短径64cm、深さ45cm (形状) 隅丸長方形。

27号土壌

(検出区) I-30グリッド。(規模) 長径193cm、短径75cm、深さ106cm (形状) 円形。(出土遺物) 図示しなかったが近世土器1点。

28号土壌

(検出区) I-40グリッド。(規模) 長径120cm、短径83cm、深さ105cm (形状) 円形。(出土遺物) 縄文土器破片。

29号土壌

(検出区) J-30グリッド。(規模) 長径200cm、短径77cm、深さ34cm (形状) 長方形。

30号土壌

(検出区) G-30グリッド。(規模) 長径130cm、短径97cm、深さ65cm (形状) 楕円形。

31号土壌

(検出区) G-30グリッド。(規模) 長径180cm、短径67cm、深さ65cm (形状) 楕円形。

32号土壌

(検出区) M-40グリッド。(規模) 長径70cm、短径45cm、深さ26cm (形状) 円形。(出土遺物) 縄文土器破片。

33号土壌

(検出区) K-10グリッド。(規模) 長径208cm、短径108cm、深さ82cm (形状) 不正円形。

34号土壌

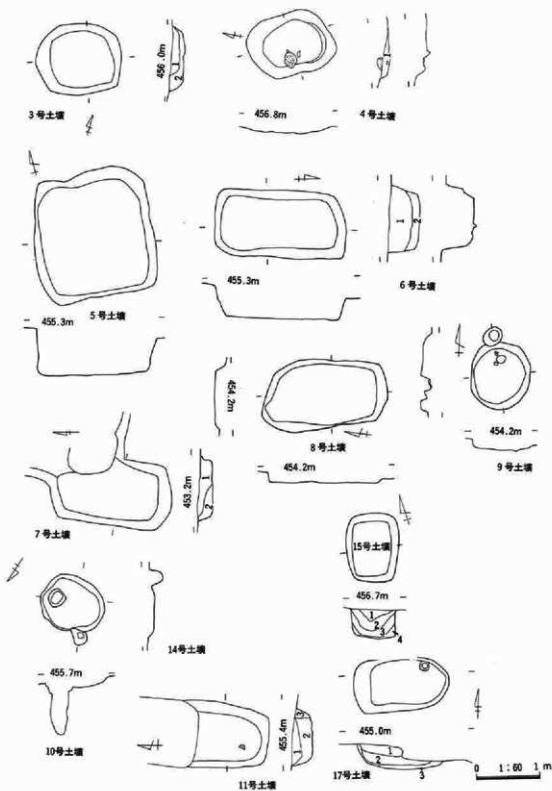
(検出区) L-60グリッド。(規模) 長径125cm、短径75cm、深さ48cm (形状) 円形。(出土遺物) 1の縄文土器は沈線、刺突文を施す。縄文後期に比定される。2は黑色頁岩の打製石斧。

35号土壌

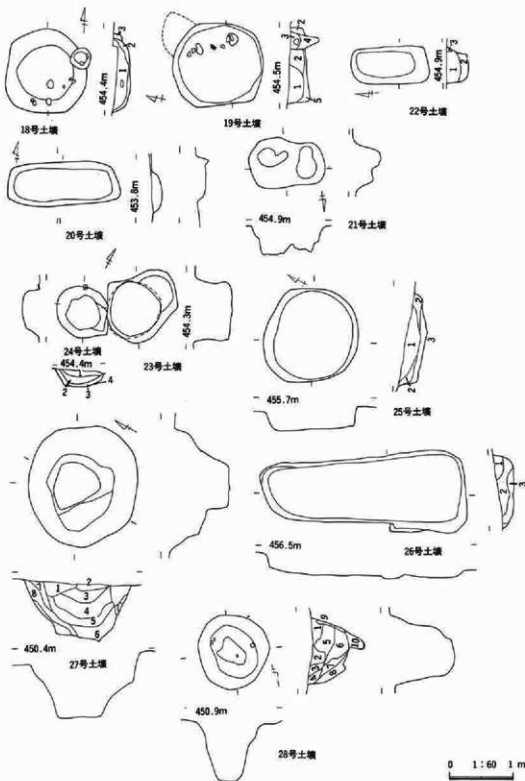
(検出区) L-60グリッド。(規模) 長径163cm、短径95cm、深さ32cm (形状) 円形。(出土遺物) 黑色頁岩の剥片。

36号土壌

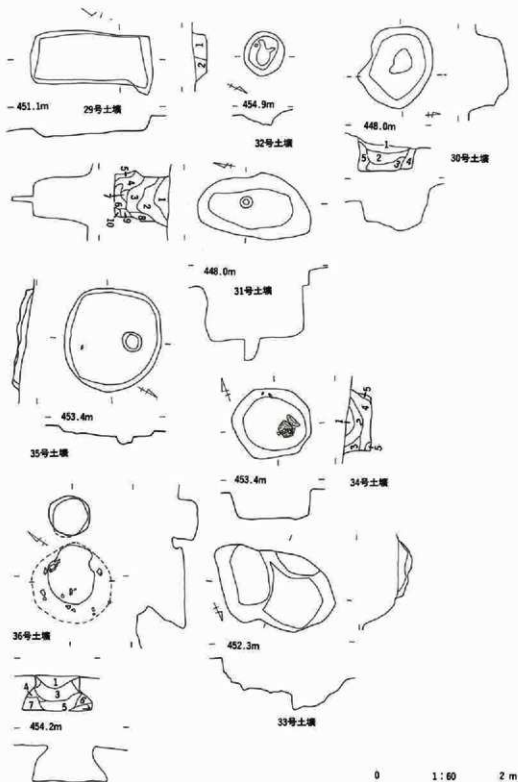
(検出区) M-60グリッド。(規模) 長径93cm、短径50cm、深さ90cm (形状) 楕円形(袋状土壌)。6号住に切られている。(出土遺物) 1～9はいずれも胎土に繊維が多量に混入しており、羽状縄文を施文したものが多い。10は黑色安山岩の剥片。



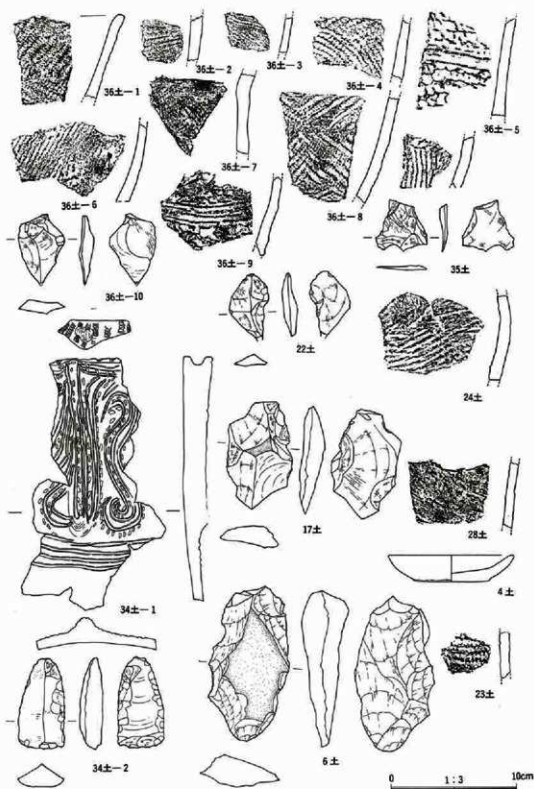
第21图 土坑(1)



第22图 土坑(2)



第23图 土坑(3)



第24図 土境 出土遺物

4 溝 跡 (第4・25図、第26図)

調査区南端のQ-80グリッドから調査区北端のB-20グリッドまで続く溝跡である。Q-80グリッドでは、右岸のP-80グリッド付近でやや左へ蛇行。O-80グリッド付近から左岸の上端面が広がり棚状の平坦面が出現する。セクションA-A'付近で上幅6.5m、上端幅4.22m、下端幅2.56m、底部までの深さ1.2m、深さ1.7mを計測する。M-70グリッド付近から西へ大きく蛇行しながら北北西へ走行する。セクションB-B'付近で上幅15.04mを計測する。上幅5.2m、下幅3.3m、深さ1.08mでの本流部分と、上幅1.74m、下幅0.5m、深さ0.8mの、U字型の断面形をした溝がL-60グリッドで出現する。U字溝はこの付近から下流部分では検出されなかった。H-50グリッド付近のセクションC-C'では上幅12.05m、上端幅7.7m、下端幅4.4m、深さ2.2mの規模となる。B-20グリッド付近では上端幅8.2m、下端幅2.9m、深さ2.5mの規模となり、さらに北北西方向へ続いていた。

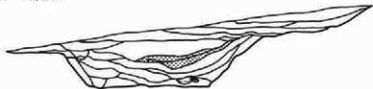
覆土はFP混じりの黒褐色土が主体で、底部は砂混じりの水性堆積の状況呈する。セクションA-A'とセクションB-B'では覆土中に青灰色軽石(第25図中の網かけトーンの部分)の堆積が見られた。この軽石はAs-B(浅間山Bテフラ層、1108年)とみられる。

遺物は主にセクションA-A'付近からセクションB-B'付近の覆土中から縄文時代の石器、平安時代の土師器、砥石、ふいごの羽口等が出土した。1は土師器の甕で口縁部はすどく外反する。2・3・4は羽口で、いずれも外面にガラス質の溶出がみられる。5は流紋岩製、6はデイサイト製の砥石で、いずれもかなり使用されている。7は鉄製品で釘と思われる。8・9は打製石斧で材質は黒色頁岩である。10は黒色頁岩製の三角錐形石器である。11は有茎石鏃で材質は黒曜石である。

遺物は主に青灰色軽石より下の覆土中から出土しており、1108年にはすでに溝としての機能は果たしていなかったと考えられる。現在遺跡の東側に前原沢が流れているが、この前原沢から引水するために掘削されたものか、もしくは前原沢自体の旧河道跡のいずれかであると推定される。

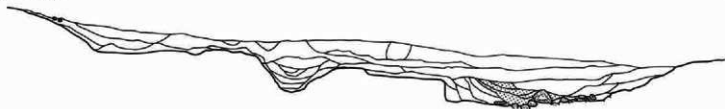
A — 454.4m

— A'



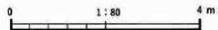
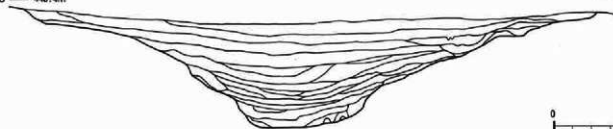
B — 453.2m

— B'

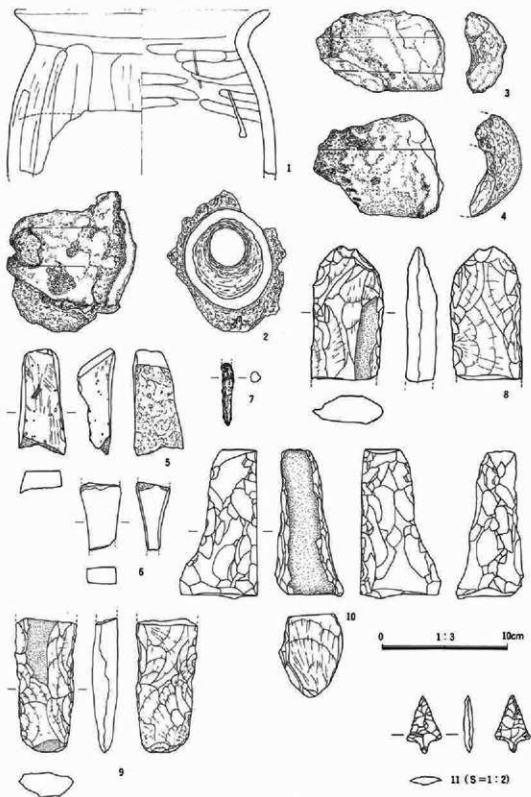


C — 448.4m

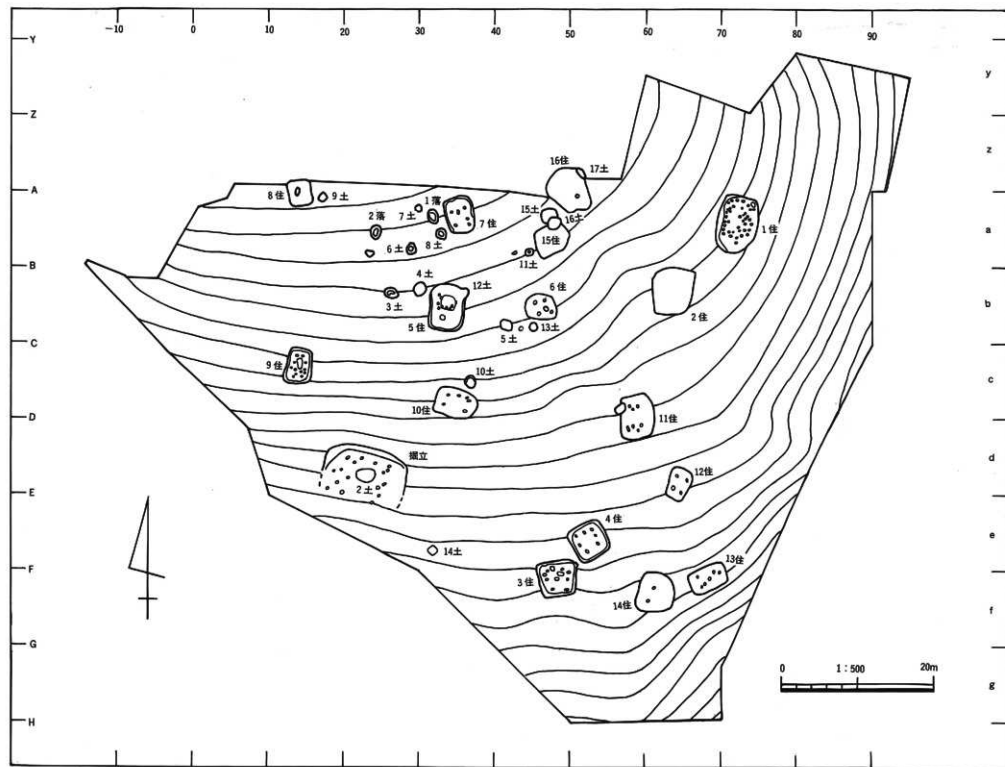
— C'



第25図 溝 セクション



第26図 溝 出土遺物



第27図 青戸田遺跡全体図

VI 背戸田遺跡の調査

1 遺跡の概要 (第27図)

本遺跡は縄文時代前期・中期及び平安時代の複合遺跡である。調査面積は約4,500m²である。縄文時代の竪穴住居跡16軒、落し穴2基、土壇16基が検出された。平安時代では掘立柱建物跡を検出した。また、第III層中からは遺構外で多数の縄文土器・石器が出土した。

出土遺物は縄文前期の黒浜式期、諸磯式期、中期の阿玉台式期が見られるが、前期が主体を占める。石器類は、材質が黒色頁岩、黒曜石のものが主体である。

2 竪穴住居跡

1号住居跡 (第28図、第29・30・61図)

A-70グリッドに位置する。南西に隣接して2号住居跡がある。平面形は隅丸長円形(7.8m×5.38m)で、壁高は西壁で85cm、東壁で18cmを計る。床面はローム地床でほぼ平坦、炉は住居中央やや北よりに位置し、東西1.08m 南北1.7mの楕円形の掘り込みである。炉の中心部分は石囲い炉となっており、石の一部は石皿の破片を転用している。ピットは45基検出された。壁際に沿って直径20cm前後のピットがほぼ一周している。P 1～P 4が主柱穴と思われる。周溝は南辺から西辺の一部にかけて浅い溝が確認されたのみである。

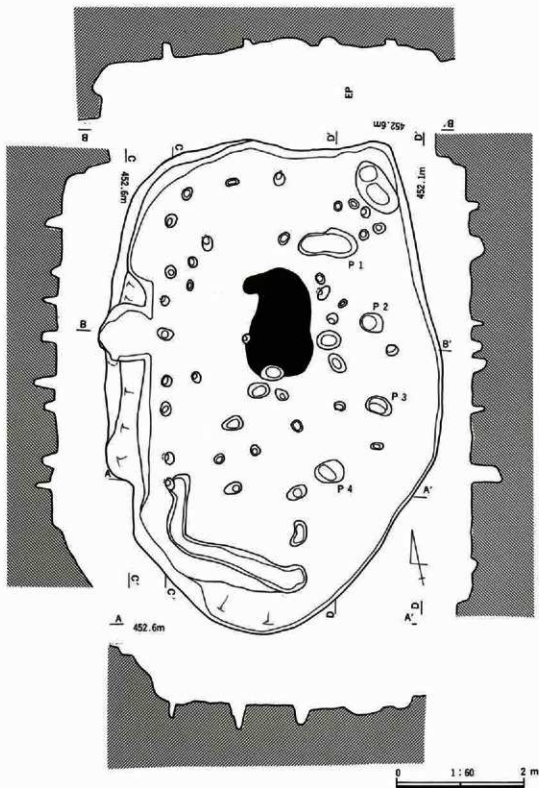
出土遺物の1は胎土に繊維を含む波状口縁の深鉢、2は単節LRに結束縄文のつく深鉢、3は単節RLの胴下部、4は梯子状の平行沈線を鋸歯状施文する口縁部、5は単節RLの斜行縄文、6は単節RLの斜行縄文の上げ底の底部、7は磨石、8～11は凹石、12・13は黒色頁岩の剥片、14～16は打製石斧、17は削器、18は片刃石斧、19は炉石に転用されていた安山岩製の石皿、第61図-1は黒色頁岩の石鉢である。

2号住居跡 (第31図、第32・61図)

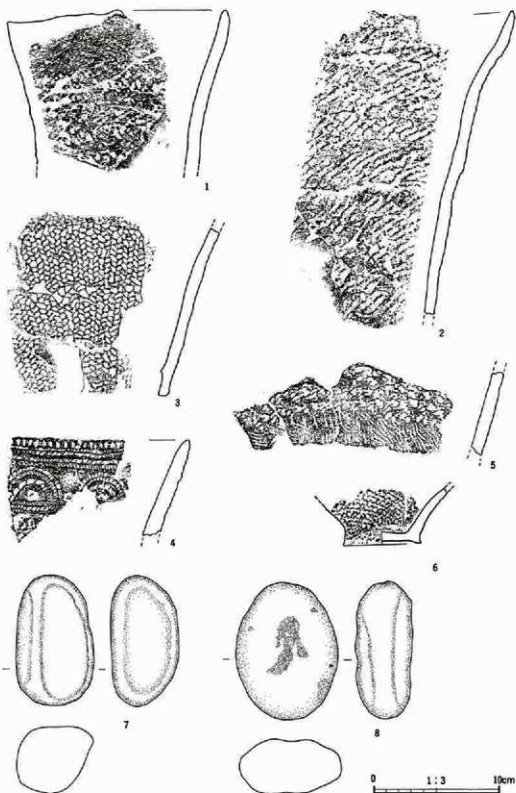
B-60グリッドに位置する。北東に隣接して1号住居跡がある。平面形は隅丸長方形(5.71m×5.38m)で、壁高は西壁で62cmである。床面は不明確で、北から南へ緩やかに傾斜している。炉、ピット、壁周溝等の付帯施設は確認できなかった。

出土遺物の1は半截竹管による蕨手状の曲線文に粘土粒を貼り付けた口縁部。2は梯子状の平行沈線・円形刺突文を有する口縁。3は浅い沈線を有する口縁。4はRL斜縄文の尖底土器。5・6はRLの斜縄文。7は半截竹管による羽状沈線を施文。8は内外面とも条痕を有する。9～11は打製石斧、12は黒色頁岩・13は変質蛇紋岩の磨製石斧、第61図-2はチャート製の石鉢、第61図-24は両端から穿孔し途中でやめた管玉(滑石製)である。

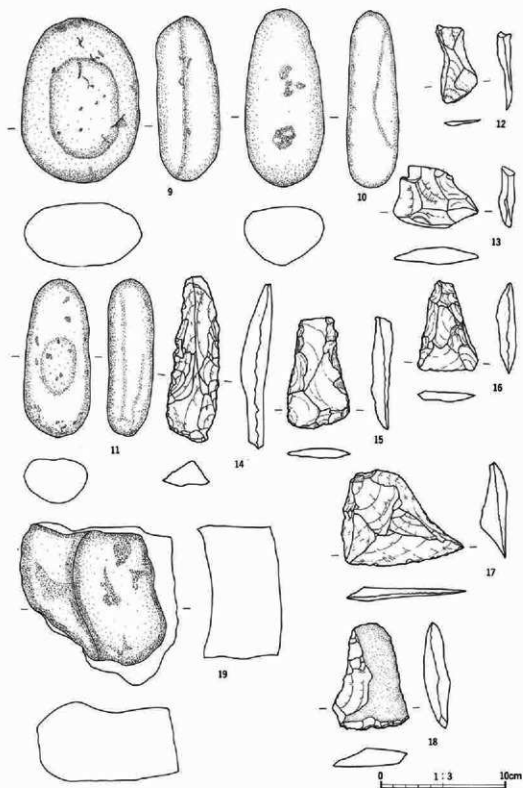
遺物は床面から浮いた状態で出土していることから、土器溜りとも考えられる。



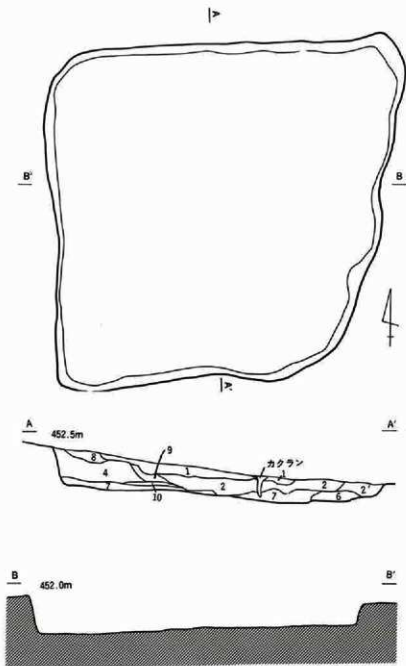
第28図 1号住居跡



第29图 1号住居跡出土遺物(1)



第30図 1号住居跡出土遺物(2)

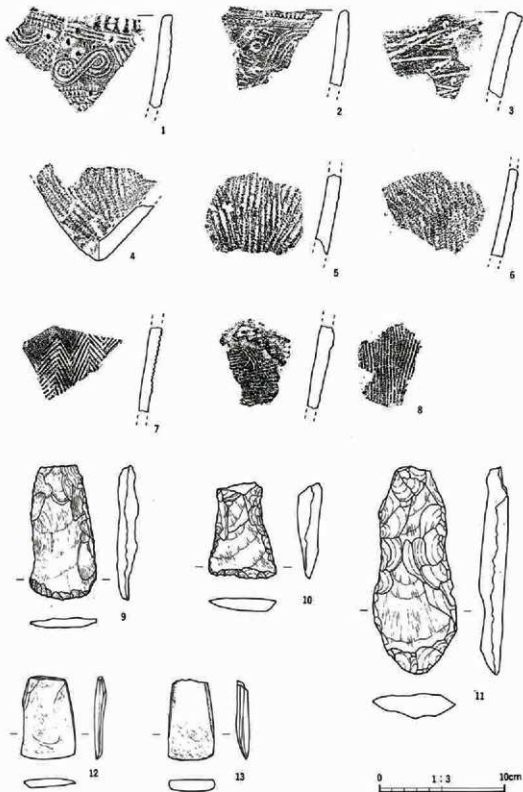


2号住居跡セクション註記

- | | | |
|-----|-------------|--------------------------------|
| 1層 | 茶褐色土 | 2mm大の白色磁物を若干含む。 |
| 2層 | 暗褐色土 | ローム粒子を若干含む。しまっている。 |
| 2層 | やや黄白色味を帯びる。 | |
| 3層 | 暗褐色土 | ローム粒子（細かい）を若干含む。 |
| 4層 | 暗褐色土 | ローム粒子をまばらに含む。しまっている。 |
| 5層 | 暗褐色土 | ローム粒子、ロームブロックをまばらに含む。固くしまっている。 |
| 6層 | 暗黄褐色土 | ローム |
| 7層 | 暗黄褐色土 | 粘性、やや強い。ローム粒子をまばらに含む。 |
| 8層 | 明茶褐色土 | |
| 9層 | 茶褐色土 | |
| 10層 | 暗褐色土 | ロームブロックを含む。 |

0 1:50 2 m

第31図 2号住居跡



第32圖 2号住居跡出土遺物

3号住居跡（第33図、第35・61図）

F-45グリッドに位置する。北東に隣接して4号住居跡がある。平面形は隅丸長方形(5.28m×4.6m)だが、南壁部分は畑の畝により破壊されており不明瞭である。壁高は北壁で45cmである。床面はローム地床で北から南にかけて緩やかに傾斜している。炉は焼土もみられず不明であるが、位置的にはP11かP12付近に存在していたと見られる。ピットは13基検出した。P1～P8が柱穴、このうちP1・2・3・6・7・8が主柱穴と推定される。壁周溝は、削平されている南辺を除き、ほぼ一周している。

出土遺物の1は単節RL斜縄文施文の深鉢。2は単節RL斜縄文の口縁。3はLR斜縄文の口縁。4は平行沈線とコンパス文を施す口縁。5はRL斜縄文の口縁。6はへら状工具による連続爪形文の深鉢底部。第61図-3は黒色頁岩の石鉢、第61図-24は黒色頁岩の石鉢である。

4号住居跡（第34図、第36図）

e-50グリッドに位置する。南西に隣接して3号住居跡がある。平面形は隅丸長方形(4.92m×4.85m)で、壁高は北壁で51cmを計る。南コーナー付近をはじめ畑の畝による削平を受けている。炉は住居中央北壁寄りに位置する。浅い掘り込みを有する地床炉で西隅に枕石を一石置くタイプである。ピットは8基検出した。P1～P6が主柱穴、P7・P8は補助的な柱穴と思われる。壁周溝は幅35cm前後、深さ20cmのしっかりした作りで一周している。

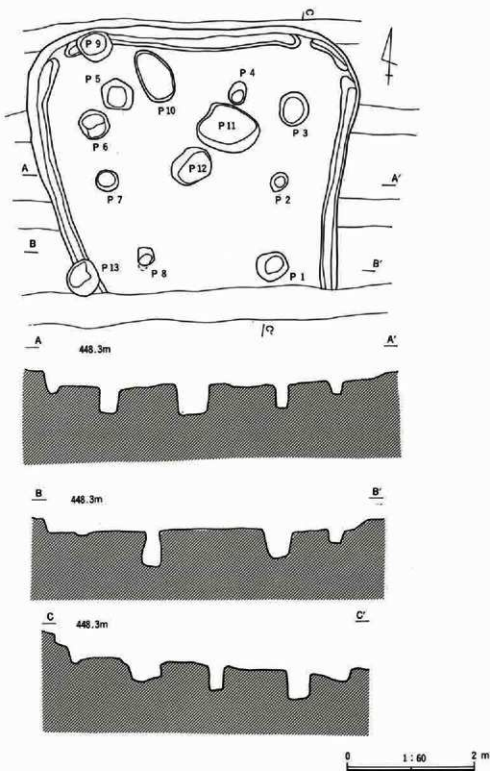
（覆土分層註記）1層黒褐色土。2層炭化物を少量含む暗褐色土。3層黄褐色粒子を含む暗褐色土。4層ロームを少量含む暗褐色土。5層ロームを含む暗褐色土。6層暗褐色土。7層ロームを含む褐色土。8層ロームを含む褐色土。9層ロームを多量に含む褐色土。10層炭化物を少量含む暗褐色土。11層ロームを多く含む暗褐色土。12層ロームを含む暗褐色土。

出土遺物の1はLR・RLの羽状縄文施文後、口唇部粘土紐波状に貼り付け。2は地文に単節斜縄文・平行沈線・渦巻文を施す。3は凹石。

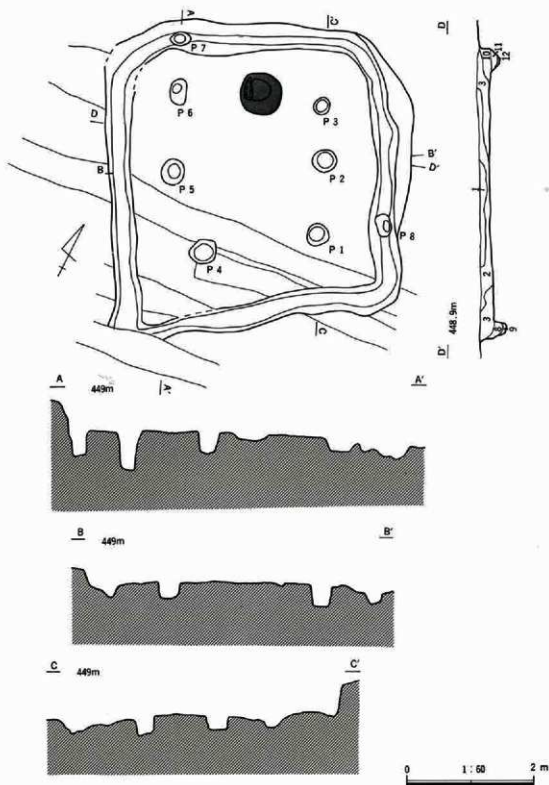
5号住居跡（第37図、第38・39・61図）

B-30グリッドに位置する。12号土塙と切り合い関係にあるが、新旧関係は不明である。平面形は隅丸長方形(6.28m×4.42m)を呈し、壁高は西壁で100cmである。床面はローム地床でほぼ平坦である。炉は東西1.9m南北1.98mの隅丸方形の浅い掘り込みが該当すると思われるが、底面、覆土中に焼土、灰等は見られなかった。ピットは17基検出した。P1～P7は壁際の周溝内に存在する。P10・P12～P17は炉の周囲を囲むように位置している。P0は貯蔵穴と考えられる。壁周溝は北辺を除いた三辺に幅20cm前後、深さ16cm前後で掘られていた。

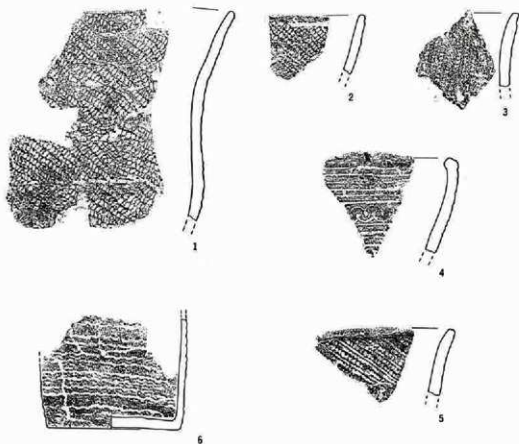
（覆土分層註記）1層明茶褐色土。2層ローム粒子を含む暗茶褐色土。2'層ローム粒子を若干含む暗茶褐色土。2''層やや明るい暗茶褐色土。3層茶褐色土ブロックを含む暗褐色土。3'層ローム粒子を若干含む暗褐色土。2''層茶褐色土ブロックを含まない暗褐色土。4層ローム粒子・ロー



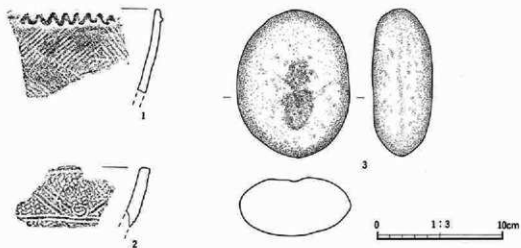
第33図 3号住居跡



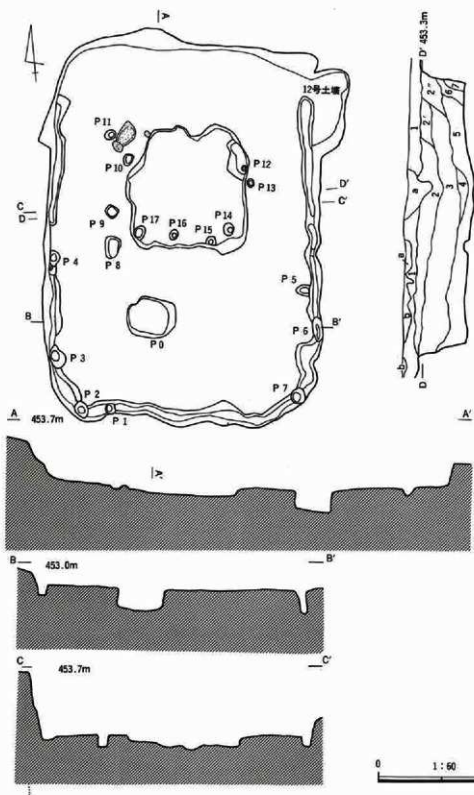
第34图 4号住居跡



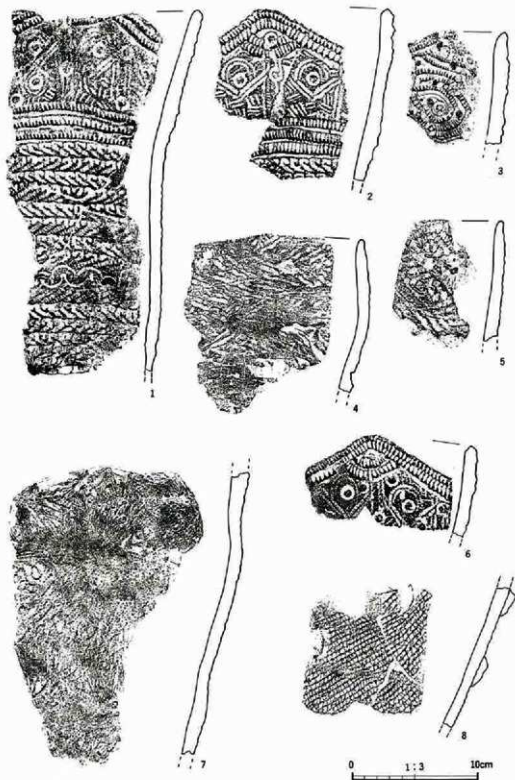
第35图 3号住居跡出土遺物



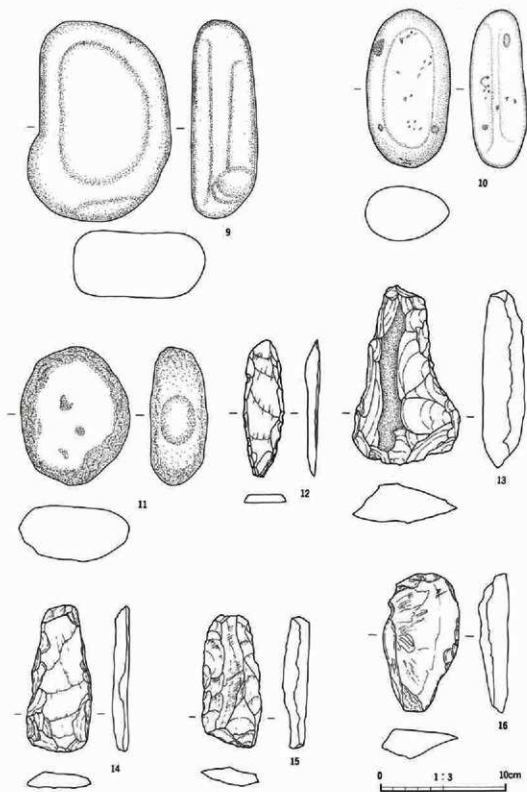
第36图 4号住居跡出土遺物



第37回 5号住居跡



第38图 5号住居跡出土遺物(1)



第39图 5号住居跡出土遺物(2)

ムブロックを若干含む暗褐色土。5層ローム粒子を若干含む黒褐色土、粘性強い。6層ローム粒子を若干含む褐色土。7層ロームブロックを若干、ローム粒子をまばらに含む暗黄褐色土。a層攪乱の黒色土。b層攪乱の黒褐色土。

出土遺物の1は口縁部に刻目をもつ隆帯を2本廻らせ、竹管具による円形刺突と蕨手状に燃糸側面圧痕文を施したもの。頸部に3条隆帯を廻らせ口縁部文様を区画するループ文による羽状、コンパス文が胴部に施文される。2・6がほぼ同様な口縁文様である。3は梯子状沈線、円形刺突、瘤状貼付文を有する口縁部。4・5・7は胎土に多量に繊維を含む羽状縄文を施文。8は単節LR斜行縄文に豆粒文がつく。9～11は黒色頁岩の凹石、12～15は黒色頁岩の打製石斧、16は黒色頁岩の彫器、第61図～4はチャート製の石鏃である。

6号住居跡（第40図、第42図）

b-45グリッドに位置する。平面形は楕円形（4.28m×3.40m）を呈し、壁高は北壁で58cmである。床面はローム地床でほぼ平坦。炉（P5）は特に焼土・炭化物等は検出されなかった。ピットは5基検出された。P1～P4が主柱穴と思われる。周溝等は検出されなかった。

（覆土分層註記）1層明茶褐色土。2層ローム粒子を含む茶褐色土。2'層ローム粒子を若干含む茶褐色土。3層茶褐色土ブロックを含む暗褐色土。4層ローム粒子を若干含む黒褐色土。4'層暗茶褐色土。4''層ローム粒子をまばらに含む黒褐色土。5層暗茶褐色土。

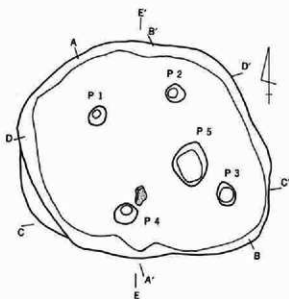
出土遺物の1・2は黒色頁岩の凹石、3は黒色頁岩の打製石斧、第61図～6は黒色安山岩の石鏃である。

7号住居跡（第41図、第43・61図）

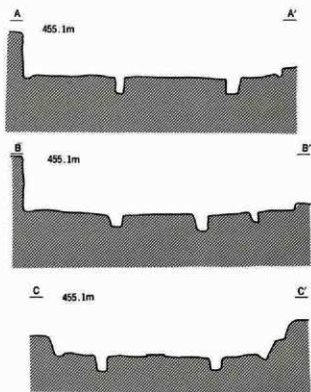
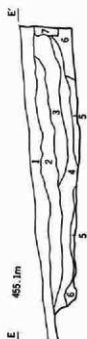
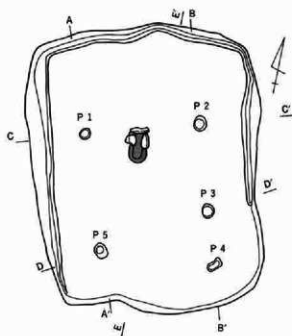
A-35グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形（4.59m×3.17m）で、壁高は北壁で62cmである。床面はローム地床でほぼ平坦。炉は住居中央やや北寄りに位置し、南北にやや長い楕円形の石囲い炉である。ピットは5基検出され、いずれも柱穴と思われる。壁周溝はほぼ一周しているが、南辺と東辺の南半分は明確でなかった。

（覆土分層註記）1層明茶褐色土。2層茶褐色土ブロックを含む暗褐色土。2'層ローム粒子を若干含む暗褐色土。3層茶褐色土ブロックをまばら、ロームブロックを若干含む暗褐色土。4層茶褐色土ブロック・ローム粒子を若干含む黒褐色土。5層ローム粒子を若干含む暗灰褐色土、粘性強い。6層茶褐色土ブロックまばら、ローム粒子を若干含む暗灰褐色土。7層ロームブロック・ローム粒子を若干含む暗茶褐色土。

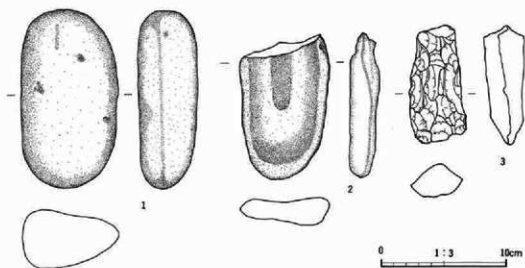
出土遺物の1・3は隆帯により楕円区画文を施し、区画内に平行沈線を施文する。2は連続刺突文+横位の平行沈線+縦位の平行沈線を施文。4は縦位突帯貼り付け、口縁に沈線・縄文施文。5は口縁部竹管具による円形刺突と蕨手状および燃糸側面圧痕文、胴部は羽状縄文が施文される。第61図～6は黒色安山岩の石鏃である。



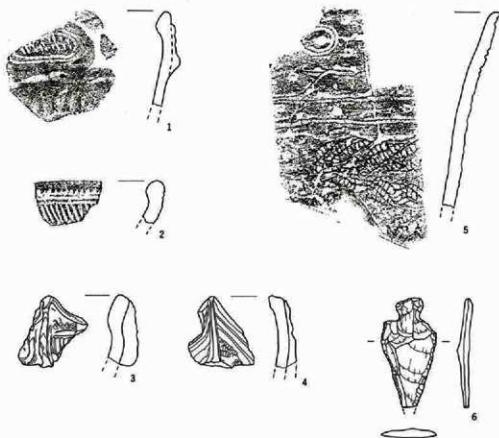
第40图 6号住居跡



第41圖 7号住居跡



第42图 6号住居跡出土遺物



第43图 7号住居跡出土遺物

8号住居跡（第44図、第47・61図）

A-10グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形（3.54m×2.79m）で、壁高は北壁で58cmである。床面はローム地床で固くしまっている。炉は住居中央やや西よりに位置する。平面形が長楕円形の地床炉で、縄文土器鉢の破片が埋設されていた。燃焼度は高い。ピット、貯蔵穴、周溝等の付帯施設は検出されなかった。

出土遺物の1は波状口縁、結節縄文施文。2は単節のLR斜縄文。3は打製石斧、第61図-5は黒色頁岩の石鏃である。

9号住居跡（第45図、第47・61図）

C-10グリッドに位置する。平面形は南北に長い隅丸長方形（4.61m×3.29m）で、壁高は北壁で65cmである。床面はローム地床で固くしまり、ほぼ平坦である。炉は住居中央やや北寄りに位置する楕円形（東西0.96m、南北1.45m）の浅い掘り込みが該当するとみられるが、焼土・炭化物等は検出されなかった。ピットは14基検出された。P1～P4が主柱穴と思われる。P5・P6は位置的に住居の出入口施設関連のピットと推定される。壁周溝は一周していた。

（覆土分層註記）1層明茶褐色土。2層茶褐色土ブロックをまばらに含む黒褐色土。3層茶褐色土ブロックを若干含む黒褐色土。4層ローム粒子をまばらに含む黒褐色土。5層茶褐色土ブロックをまばらに含む暗褐色土。6層茶褐色土ブロック・ローム粒子を若干含む暗褐色土。8層ローム粒子をまばらに含む暗褐色土。9層暗灰褐色土、粘性強い。

出土遺物の1は口縁部に刻目をもつ隆帯を2本廻らせ、竹管具による円形刺突と獸手状に墨糸側面圧痕文を施したものの。2は山形押型文土器の口縁部である。第61図-7はチャートの石鏃である。

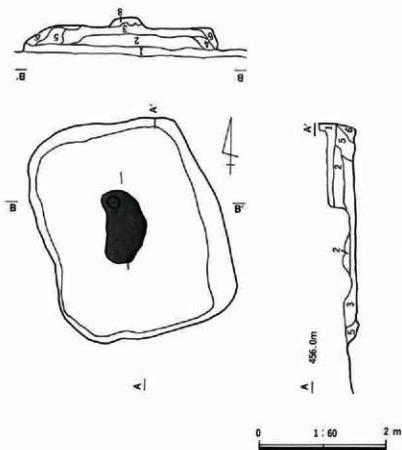
10号住居跡（第46図、第47・61図）

c-10グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形（5.73m×3.56m）で、壁高は北壁で54cmである。南辺と東辺南半分は耕作による削平をうけている。床面はローム土の貼り床でほぼ平坦。炉は住居中央やや南寄りに位置する楕円形の地床炉である。ピットは8基検出された。P3・4・5の3基は住居建て替えの際位置が変えられたものか。主柱穴はP1・2・3・4・5・6・7の3が主柱穴と思われる。

出土遺物の1は結束斜縄文。2はRL斜縄文を施文した尖底土器。3は黒色頁岩のスタンプ状石器、第61図-8は黒色頁岩・9は珪質凝灰岩の石鏃である。

11号住居跡（第48図、第49・50図）

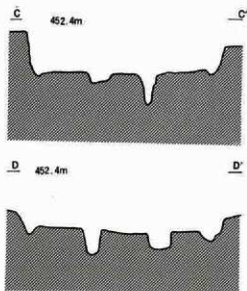
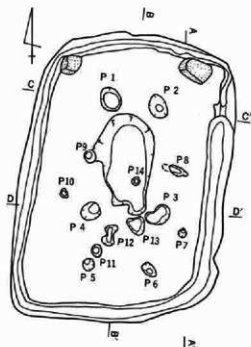
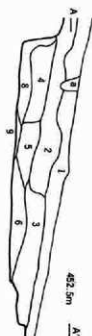
c-55グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形（5.87m×4.52m）で、壁高は北壁で50cmであるが、南壁は削平によりほとんど残っていない。また、西壁やや北寄りには攪乱により破壊されて



8号住セクション註記

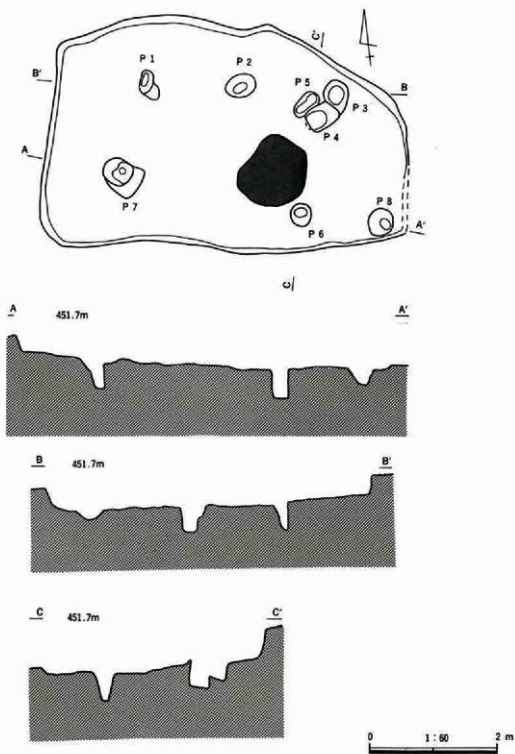
- 1層 明茶褐色土
- 2層 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックをまばらに含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子若干含む。
- 4層 褐色土
- 5層 暗褐色土 茶褐色土ブロック若干含む。
- 6層 暗黄褐色土 ロームブロックを若干含む。(やや褐色が強い。)
- 8層 暗黄褐色土 ロームブロックを含む。

第44図 8号住居跡

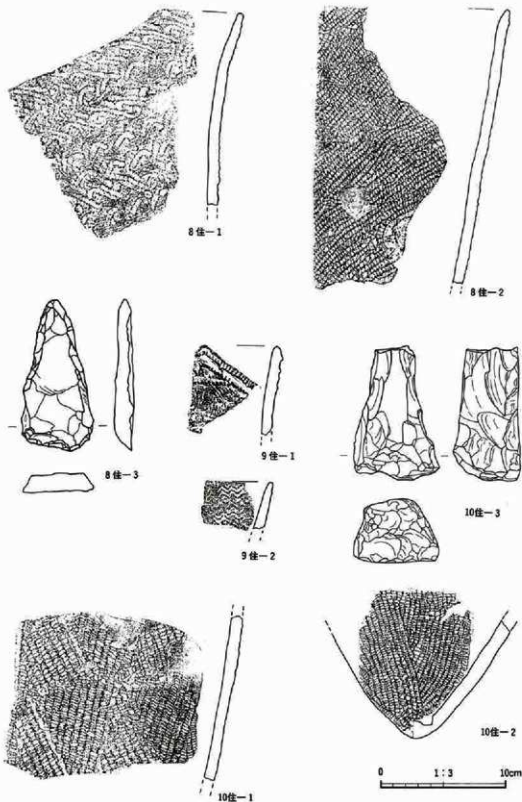


0 1 : 60 2 m

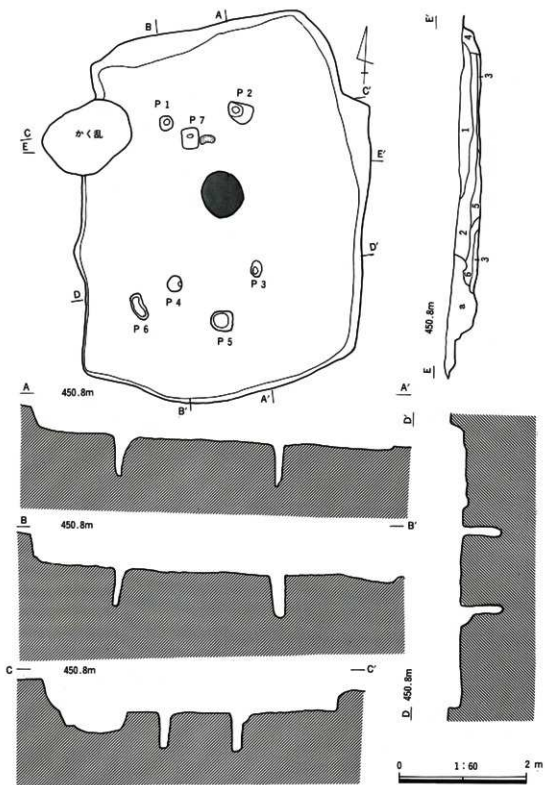
第45图 9号住居跡



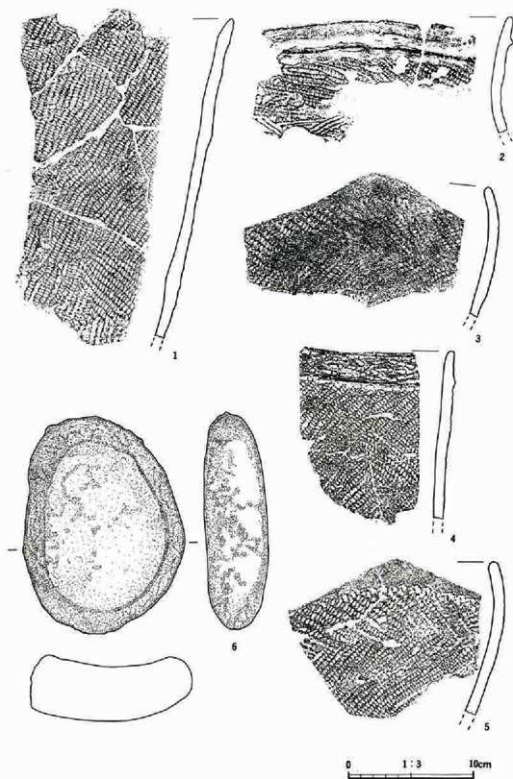
第46图 10号住居跡



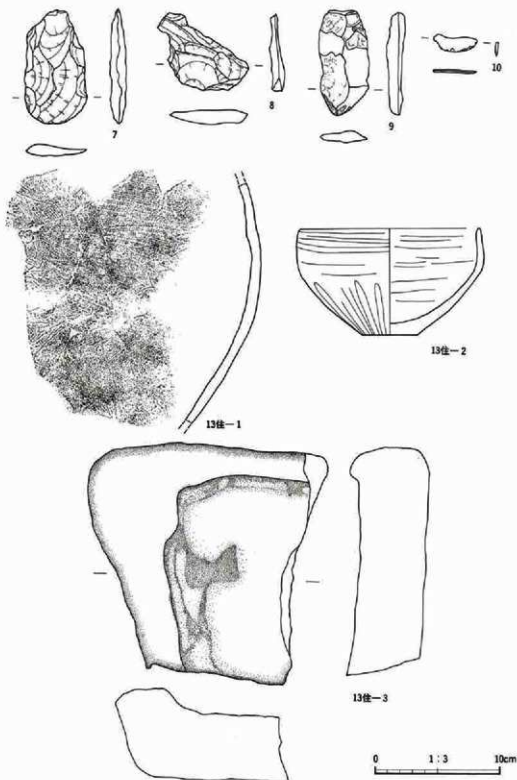
第47圖 8・9・10号住居跡出土遺物



第48図 11号住居跡



第49図 11号住居跡出土遺物



第50図 11号・13号住層跡出土遺物

いた。床面はローム地床でほぼ平坦。炉は住居中央やや北寄りに位置する。浅く掘り込んだ楕円形の地床炉である。ピットは6基検出された。P 1～P 4が主柱穴と思われる。

出土遺物の1は単節のLR斜縄文。2は口縁部に隆帯を持つ。羽状縄文施文、穿孔2ヵ所あり。3はLR・RLの羽状縄文施文の波状口縁、やや内湾気味の口縁。4は口縁部刺突文、隆帯を持つ。羽状縄文施文。5はLR・RLの羽状縄文施文の波状口縁、やや内湾気味の口縁。6は石皿、7は打製石斧、8・10は石匙、9は削器である。

12号住居跡（第51図）

d-60グリッドに位置する。南辺と東辺は削平を受けており明確でない。平面形は隅丸長方形（4.26m×2.94m）と推定される。壁高は北壁で40cmである。床面はローム地床でほぼ平坦。炉は住居中央に位置する。平面形が楕円形をした地床炉である。ピットは4基検出された。P 1～P 4の4基とも主柱穴と思われる。

（覆土分層註記）1層茶褐色土。2層ロームブロックを若干含む暗茶褐色土。3層ローム粒子を若干含む暗褐色土。4層暗灰褐色土、粘性強い。5層ローム粒子をまばらに含む暗黄褐色土。

遺物は縄文土器の小破片であった。

13号住居跡（第52図、第50図）

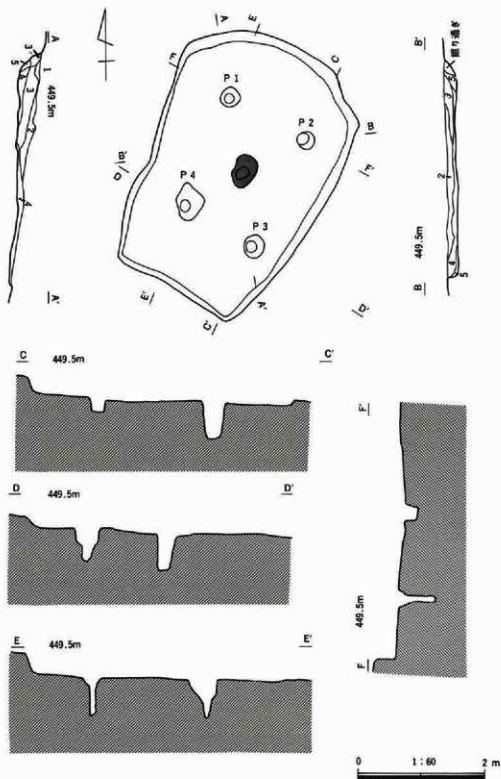
F-65グリッドに位置する。西側に隣接して14号住居跡がある。南壁は削平のため明確でない。平面形は東西方向に長い隅丸長方形（5.04m×推定3.3m）で、壁高は北壁で42cmである。床面はローム地床でほぼ平坦。炉は住居のほぼ中央に位置する。平面形が楕円形の地床炉で北側に枕石を一石置くタイプである。燃焼度は強い。ピットは6基検出された。P 1・P 2・P 6の3基が主柱穴と思われるが、掘り込みが浅い。壁周溝は検出されなかった。

出土遺物は、1は内外面に条痕を施した胴部、2は内外面に筥調整を施した小型鉢、3は安山岩の石皿である。

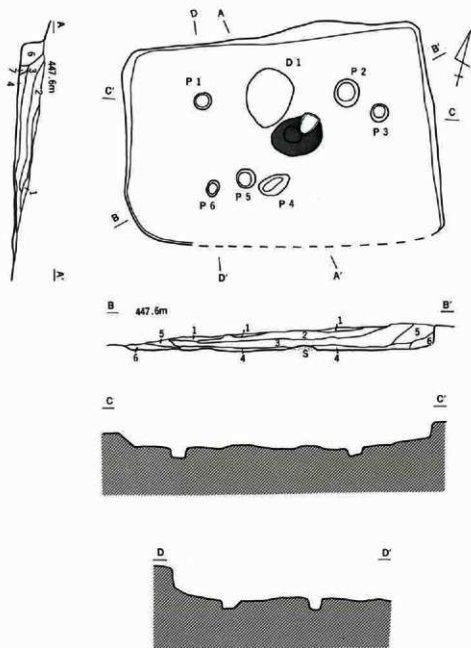
14号住居跡（第53図、第56図）

F-60グリッドに位置する。東辺は削平のため残りが悪い。平面形はややくずれた隅丸長方形（4.76m×4.10m）で、壁高は北壁で46cmである。床面は灰褐色土地床でほぼ平坦。炉は住居中央やや北寄りに位置する。床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。燃焼度は弱い。ピット、壁周溝等の付帯施設は検出されなかった。

出土遺物の1は半截竹管による斜位の沈線、耳たぶ状・棒状・ボタン状貼り付け文を施す。2は半截竹管による曲線文施文。3・4・5は口縁部粘土紐・粒状粘土貼り付け、3には焼成後穿孔あり。6は口唇部がやや肥厚、燃糸文施文。



第51図 12号住居跡

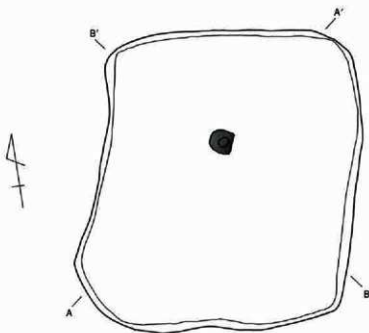


13号住 セクション註記

- | | | |
|----|-------|----------------------------|
| 1層 | 茶褐色土 | FP 多量に含む。 |
| 2層 | 黒褐色土 | FP をまばらに含む。 |
| 3層 | 暗褐色土 | 炭化物若干、FP 若干含む。 |
| 4層 | 灰茶褐色土 | 粘性やや強い。焼土、炭化物若干含む。 |
| 5層 | 暗褐色土 | (3層よりやや茶色みを帯びる) ローム粒子若干含む。 |
| 6層 | 暗茶褐色土 | ローム粒子若干含む。 |
| 7層 | 暗褐色土 | (5層よりやや茶色っぽい) ロームブロック若干含む。 |

0 1:60 2 m

第52図 13号住居跡

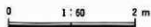
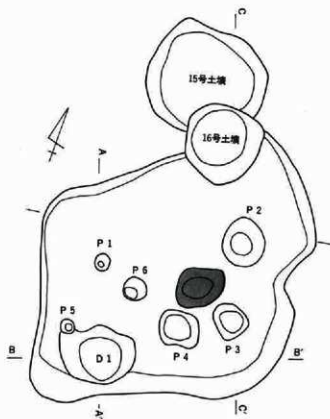


14号住セッション註記

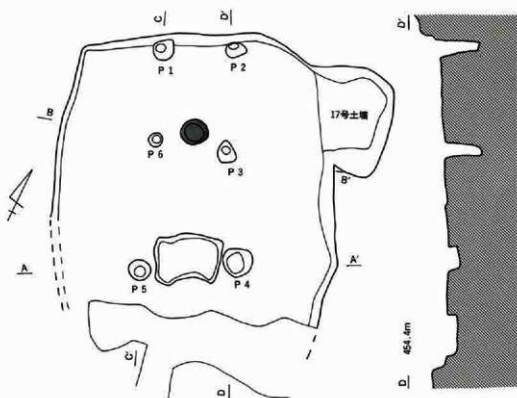
- 1層 暗褐色土 FP 若干含む。茶褐色土ブロック若干含む。
- 2層 暗褐色土
- 3層 灰茶褐色土 粘性強い。
- 4層 灰褐色土 ローム粒子若干含む。
- 5層 暗褐色土 茶褐色土ブロック若干含む。ローム粒子若干含む。
- 6層 灰褐色土 ローム粒子若干含む。



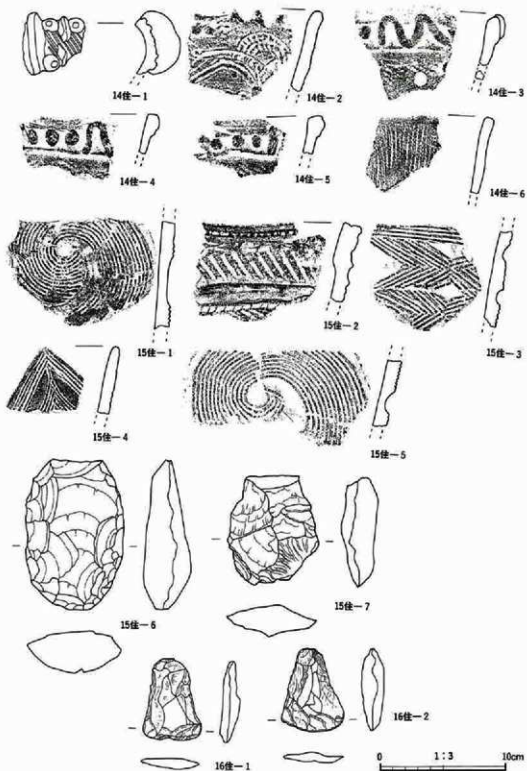
第53図 14号住居跡



第54图 15号住居跡



第55図 16号住居跡



第56图 14号・15号・16号住層跡出土遺物

15号住居跡 (第54図、第56・61図)

a-45グリッドに位置する。16号土壌と切り合い関係にあるが、新旧関係は不明である。平面形は不正円形(4.42m×3.32m)で、壁高は西壁で72cmである。床面はローム地床でほぼ平坦。炉は中央やや東寄りに位置する不正円形の地床炉である。ピットは6基検出したが、いずれも浅く柱穴として機能していたかは不明である。土壌は1基検出されており、貯蔵穴の可能性はある。

出土遺物の1・5は半截竹管による渦巻文。2は口唇部に連続刺突文、口縁部隆帯で区画し平行沈線施文。3は半截竹管による横位・斜位の沈線施文。4は波状口縁部に沈線を施す。6・7は打製石斧。第61図-10~12は黒曜石の石鏃である。

16号住居跡 (第55図、第56図)

A-45グリッドに位置する。北東コーナー付近で17号土壌と切り合い関係にある。新旧関係は不明である。南半分は擾乱による削平を受けており明確でない。平面形は隅丸長方形(5.34m×4.46m)と推定され、壁高は北壁で114cmである。床面はローム地床でほぼ平坦。炉は住居中央やや北寄りに位置し、浅く掘り込まれた楕円形の地床炉である。燃焼度は高い。ピットは6基検出した。いずれも深くしっかりしており主柱穴と考えられる。

出土遺物は、黒色頁岩の打製石斧である。

3 落し穴 (第57図、第59図)

1号落し穴

A-30グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径185cm、短径80cm、深さ113cmを計る。底面に3基ピットが存在する。出土遺物は胎土中に繊維を多量に含む波状口縁の破片が、覆土中より出土した。

2号落し穴

a-20グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径183cm、短径65cm、深さ122cmを計る。底面に1基ピットが存在する。

4 土 墳 (第57・58図、第59・60・61図)

2号土壌

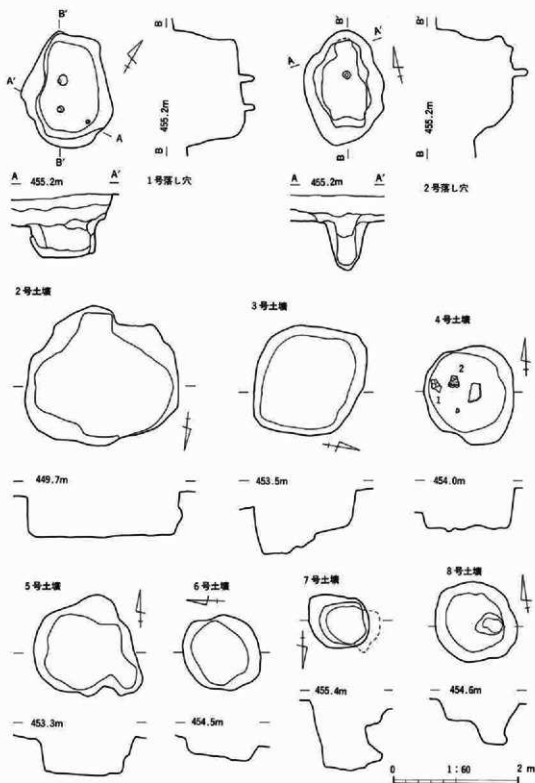
(位置) d-20グリッド。(規模) 長径246cm、短径116cm、深さ76cm (形状) 不整円形。(出土遺物) 胎土中に繊維を含む単節LRの斜縄文の口縁部破片。

3号土壌

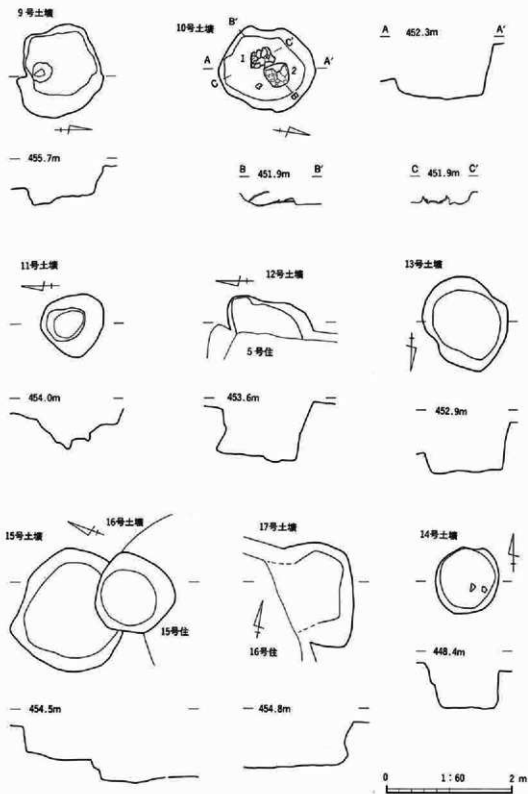
(位置) B-25グリッド。(規模) 長径210cm、短径123cm、深さ114cm (形状) 楕円形。

4号土壌

(位置) B-25グリッド。(規模) 長径154cm、短径91cm、深さ68cm (形状) 楕円形。(出土遺



第57図 落とし穴・土壇(1)



第58図 土壇(2)

物) 1は口縁部ループ文。羽状縄文+コンパス文で繊維を含む。2は羽状縄文にコンパス文2段施文。

5号土壌

(位置) b-40グリッド。(規模) 長径185cm、短径50cm、深さ62cm (形状) 不整形円形。(出土遺物) 胎土に繊維を含む羽状縄文施文の口縁。第61図-23は黒色頁岩の石匙。

6号土壌

(位置) a-25グリッド。(規模) 長径135cm、短径80cm、深さ40cm (形状) 楕円形。

7号土壌

(位置) A-25グリッド。(規模) 長径110cm、短径70cm、深さ110cm (形状) 楕円形(底面が口縁より西側に広がっている)。(出土遺物) 繊維を含む斜縄文の口縁。

8号土壌

(位置) a-30グリッド。(規模) 長径140cm、短径100cm、深さ72cm (形状) 楕円形。

9号土壌

(位置) A-15グリッド。(規模) 長径156cm、短径97cm、深さ70cm (形状) 不整形円形。(出土遺物) 第61図-13の赤色珪質岩の石鉢。

10号土壌

(位置) c-35グリッド。(規模) 長径155cm、短径60cm、深さ86cm (形状) 楕円形。(出土遺物) 2個体の深鉢が、口縁部を合わせるように横転して出土した。1は口縁部が開く深鉢で羽状縄文が全面に施文される、底部は欠損。2は胴部が直立気味に立ち上がる深鉢で羽状縄文が全面に施文される、底部は欠損。

11号土壌

(位置) a-40グリッド。(規模) 長径100cm、短径50cm、深さ63cm (形状) 楕円形。

12号土壌

(位置) B-35グリッド。(規模) 長径140cm、短径47cm、深さ95cm (形状) 不整形円形。5号住と重複、新旧関係は不明。

13号土壌

(位置) b-45グリッド。(規模) 長径155cm、短径70cm、深さ80cm (形状) 楕円形。

14号土壌

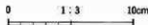
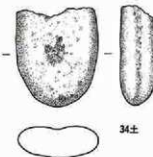
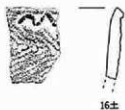
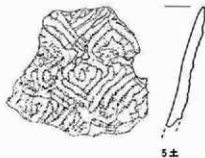
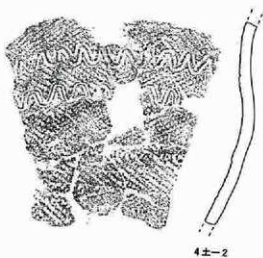
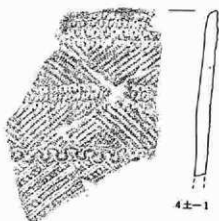
(位置) e-30グリッド。(規模) 長径112cm、短径58cm、深さ72cm (形状) 円形。

15号土壌

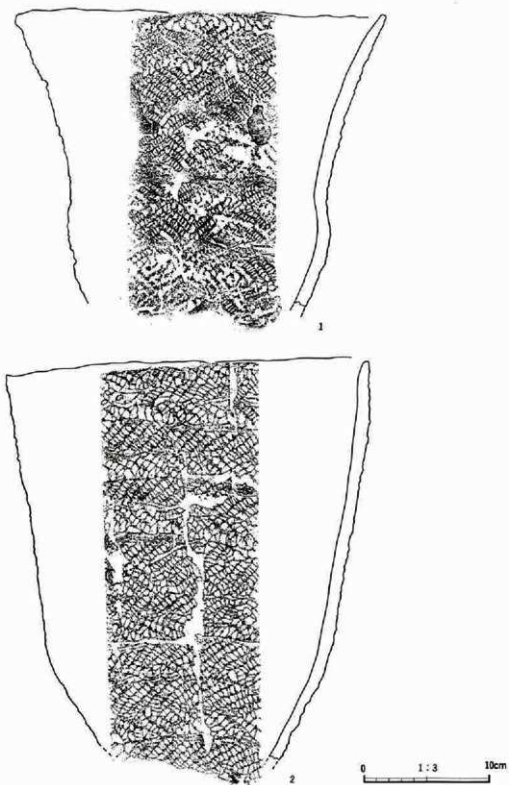
(位置) A-45グリッド。(規模) 長径192cm、短径120cm、深さ52cm (形状) 楕円形。16号土壌と切り合い、新旧関係は不明。

16号土壌

(位置) A-45グリッド。(規模) 長径130cm、短径80cm、深さ89cm (形状) 楕円形。(出土遺



第59図 落し穴・土壇出土遺物



第60图 10号土坑出土遗物

物) 羽状縄文に粘土紐を貼り付けた口縁。15号住・15号土壇と切り合い、新旧関係は不明。

17号土壇

(位置) z-50グリッド。(規模) 長径180cm、短径90cm、深さ70cm (形状) 不正円形。16号住と切り合い、新旧関係は不明。

5 掘立柱建物跡(第62図)

d-20グリッドに位置する。覆土及びピット内の覆土はFPを多量に含む暗褐色土である。傾斜面に位置するため北側と西側で法面を切り平坦面を作りだしている。この平坦面からピットを18基検出した。基本的にはP1・P2・P3・P4・P5・P18からなる1間×2間(規模4.0m×4.46m)とP6・P7・P8・P12・P13・P14からなる1間×2間(規模5.1m×3.65m)の2棟の建物跡が想定される。

また、溝が北側から東側の一部にかけて回っている。この溝に沿ってP9・P10・P11が柱間距離1.9mで並ぶ。

遺物は縄文土器片・石器が出土しているが遺構に直接伴うものはない。覆土中のFP含有量が多く周辺の遺跡での平安時代の竪穴住居跡の覆土と類似していることから時期的には平安時代頃のものと推定される。これと類似した遺構が、本遺跡の谷をはさんだ南側の丘陵上に位置する滝遺跡(昭和62年度調査)で2棟検出されている。

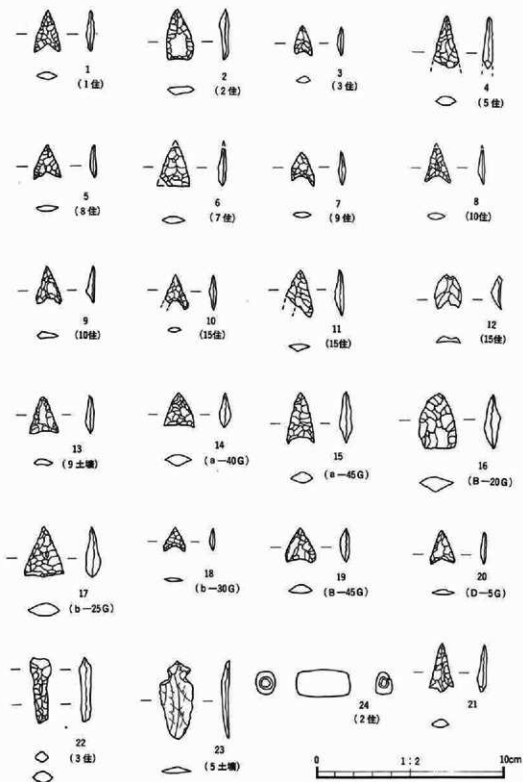
6 遺構外出土遺物(第61図・第63図)

遺構に直接伴わない遺物は、Dラインから北側で多量の縄文土器片、石器が出土した。整理途中であり、復元できたもののみ掲載した。

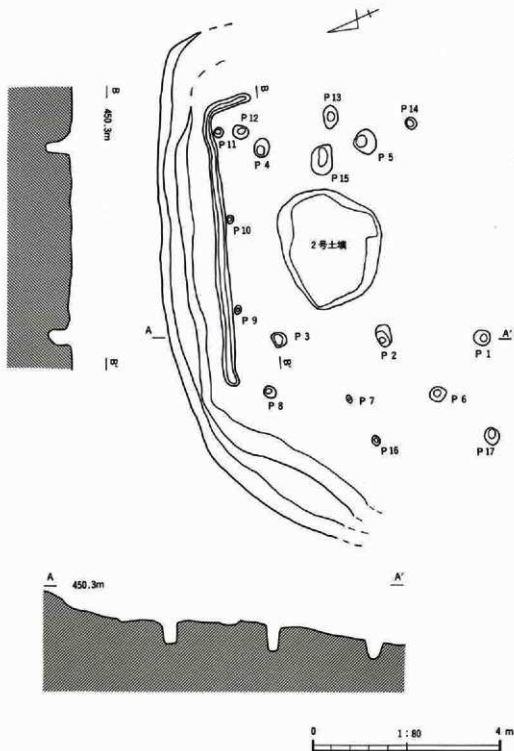
第63図-1は口縁部が開く深鉢で全面に羽状縄文を施す、底部は欠損、胎土中には繊維を多量に含む。第63図-2は閉端環付のLR・RLによる羽状縄文施文の小型鉢である。

第61図-14~21は石獣で、21のみ有茎石獣である。材質は、14がチャート、15はチャート、16は珪質頁岩、17はチャート、18は黒曜石、19は黒曜石、20は黒色頁岩、21は珪質頁岩である。

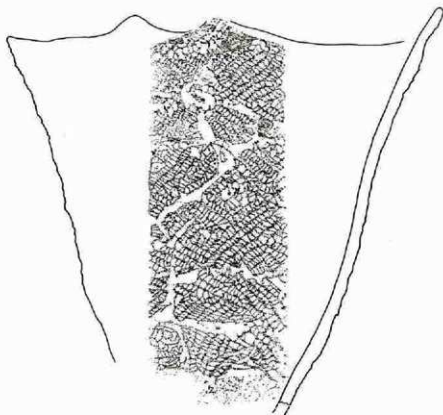
第63図-3は須恵器の環で表土中から出土した。



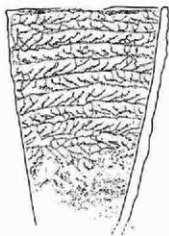
第61図 出土石器



第62图 掘立柱建物跡



1 (B-35Grid)



2 (a-20Grid)



3 (表様)



第63図 遺構外出土遺物

VII ま と め

(1) 赤坂遺跡について

縄文時代

土壌が30基検出された。遺構の広がりにはGライン付近からKライン付近およびLライン付近からOライン付近の2カ所に集中している。時期的には前期が主体であるが、34号土壌のみ後期の土器が出土している。縄文時代の遺跡付近は、傾斜面を活用した狩猟場所として利用されていたと推定される。

弥生時代

遺構は竪穴住居跡が2軒検出されたのみであったが、2軒とも炭化材が残る焼失住居で、遺物の出土量も多かった。特に9号住居跡は遺構確認面が地表から浅かったにもかかわらず、遺物は良好なセット関係で出土した。遺物の中では、土器の内外面の一部が赤彩された台付埴が、在地の土器でない可能性があり注目される。

平安時代

竪穴住居跡が9軒出土しているが、このうち5軒の住居で床面が焼土化していたり、鍛冶炉と思われるピットや土壌が床面から検出されている。ふいごの羽口や鉄滓が出土しており、ある程度本格的な生産体制をとっていた集落と考えられる。

溝跡は覆土中の軽石(As-Bと推定)の堆積状況から、西暦1108年時点では機能が廃絶していたと考えられる。この軽石層の下側の覆土中からは縄文時代・平安時代の土器・石器・ふいごの羽口・鉄滓が出土している。また、溝の底部には水性堆積の状況を呈しており、砂・泥の堆積がみられる。この覆土の堆積状況から考えて、なんらかの理由で溝に水が流れなくなり、埋没していく過程の比較的早い時期に遺物が混入して堆積したようである。

平安時代の集落と溝との関連をつかむことが今後の課題である。

中世・近世以降

中世遺構として土壌1基(4号土壌)、近世遺構として土壌1基(27号土壌)を検出した。その他遺物を伴わず時代が確定できない土壌の多くは、近世以降のものと考えられる。ただしずれの土壌も、その性格を判断できる材料はなかった。

中・近世以降の遺跡地付近は畑地および墓地として、現在とほぼ同様の土地利用をされていたと考えられる。

(2) 背戸田遺跡について

縄文時代

当該期の遺跡の範囲は、調査区内のほか遺構の分布状況からみて、調査区外北側にかけて広がりを見せている。時期的には前期の関山、黒浜、階磯、中期の阿玉台式期の遺構と遺物が出土した。

本遺跡は、基本的にはローム面まで下げないと正確な遺構確認は困難であったが、表土下の黒色土層およびローム漸移層中から縄文時代の遺物が非常に濃密に出土した関係で、グリッドごとに遺物を取り上げ調査を進めた。そのあとで遺構を確認したため、遺物がどの遺構に帰属するかが不明瞭な点が出てきた。また、遺物の出土量が多くグリッド取り上げ遺物はほとんど手付かず状態になっている。このため、遺跡の様相のほんの一部しか提示できていないことを、この場でお断りしておく。

平安時代

遺構は傾斜地を掘り込み平坦面をつくった部分にピット群がみられたのみであった（E-20グリッド）。この平坦面からは、当該時期に相当する遺物の出土はなかったが、その覆土の状況から判断して平安時代に比定した。これに類似する遺構は、南側の谷一つ隔てた丘陵上に位置する滝遺跡（下川田町字滝所在）で2ヵ所検出されている。いずれも傾斜地に立地しているが、その性格は明確でない。今後の調査での出土例の増加を待ちたい。

調査区内の表土中からは須恵器片が数点出土している。遺構に直接伴うものではなく、流れ込みの遺物であろうが、調査区外北側の山林部分になると丘陵傾斜角度がやや緩やかになるので、その付近に平安時代の生活空間が存在した可能性がある。

写 真 图 版



赤坂遺跡全景

写真図版 2 赤坂遺跡



8号住居跡（東から）



同 覆土堆積状態



同 炭化材出土状態（東から）



同 遺物出土状態（東から）



同 遺物出土状態



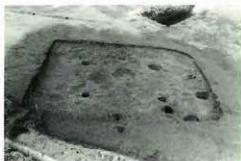
同 炉跡



重機による表土掘削



作業風景



9号住居跡（南西から）



同 覆土堆積状態



同 遺物出土状態（南西から）



同 遺物出土状態（北から）



同 遺物出土状態



同 遺物出土状態



同 遺物出土状態



同 炉跡（南東から）

写真図版 4 赤坂遺跡



1号住居跡（南西から）



同 覆土堆積状態



同 カマド



同 掘り方



2号住居跡（北西から）



同 覆土堆積状態



同 遺物出土状態



同 羽口出土状態近景



2号住居跡鍛冶炉



同 掘り方（北西から）



3号住居跡（西から）



同 覆土堆積状態



同 遺物出土状態（南から）



同 カマド



同 掘り方



作業風景



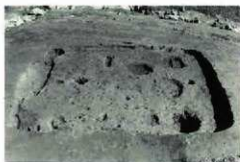
4号住居跡（西から）



5号住居跡（南から）



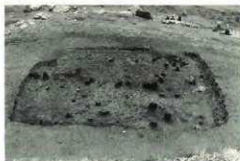
同 遺物出土状態



6号住居跡（西から）



同 覆土堆積状態（南から）



同 遺物出土状態（西から）



同 カマド



同 鐵冶炉



7号住居跡（西から）



阿 遺物出土状態



10号住居跡（北西から）



阿 覆土堆積状態



11号住居跡（南東から）



31号土坑



4号土坑



9号土坑



17号土坑



19号土坑



23号土坑



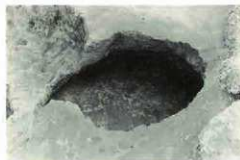
24号土坑



34号土坑



35号土坑



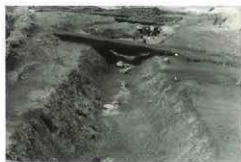
36号土坑



平安時代の集落と溝



縄文遺物包蔵地



溝（南から）



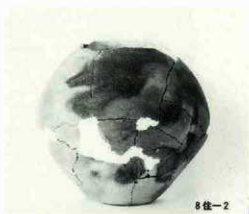
溝 屈曲地点（北から）



溝 覆土堆積状態（南から）



8 住-1



8 住-2



8 住-3



8 住-4



8 住-5



8 住-8



8 住-9



9 住出土石器





9住-11



9住-14



9住-13



9住-12



9住-15



1住-1



1住-2



2住-3



2住-1



2住-2



3住-1



3住-2



3住-5



3住-4

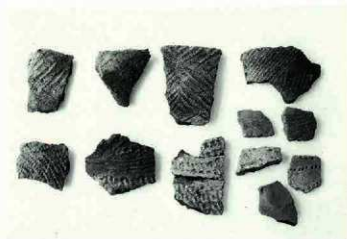


3住-7、8、9



5住-1





36土坑



溝-7



34土坑



溝-1



溝-2



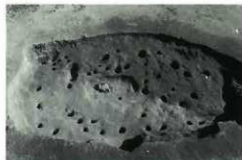
溝-3、4



背戸田遺跡全景



遺跡遠景（南から）



1号住居跡（西から）



同 遺物出土状態（西から）



同左 炉（東から）



2号住居跡（北から）



同左 遺物出土状態（西から）



3号住居跡（北から）



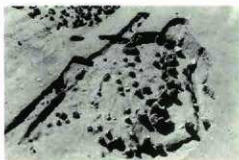
同左 遺物出土状態（東から）



4号住居跡（北西から）



同左 覆土堆積状態



同上 遺物出土状態（北東から）



同左 炉（南東から）



5号住居跡（北から）



同左 覆土堆積状態（東から）



同上 遺物出土状態（北から）



同左



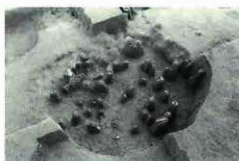
5号住居跡 炉



6号住居跡 (北東から)



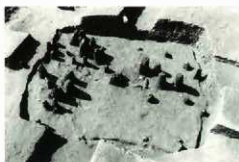
同 土層堆積状態 (東から)



同左 遺物出土状態



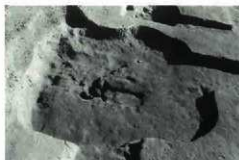
7号住居跡 (北から)



同左 遺物出土状態 (東から)



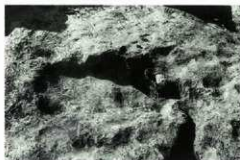
同上 炉 (東から)



8号住居跡 (西から)



8号住居跡遺物出土状態



同左 炉（東から）



9号住居跡（西から）



同左 土層堆積状態（西から）



同上 遺物出土状態（西から）



同左 炉



10号住居跡（北から）



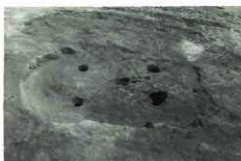
同左 遺物出土状態（西から）



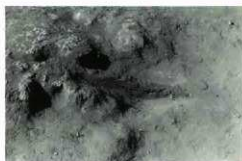
11号住居跡（北から）



同左 遺物出土状態（北から）



12号住居跡（北西から）



同左 炉



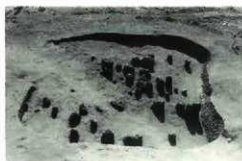
13号住居跡（北西から）



同左 遺物出土状態（北東から）



14号住居跡（北から）



同左 遺物出土状態（北から）



15号住居跡（北東から）



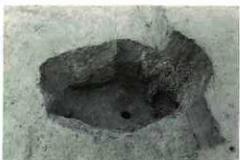
同左 遺物出土状態



16号住居跡（南東から）



1号落とし穴



2号落とし穴



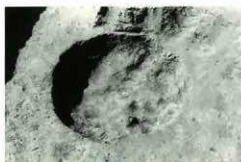
2号土坑



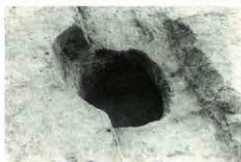
4号土坑



同左 遺物出土状態



6号土坑



7号土坑



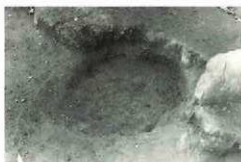
10号土坑



同左 遺物出土状態



4号土坑



15号土坑



掘立柱建物跡



グリッド遺物出土状態



1住-1



1住-2



1住-3



1住-5



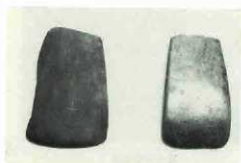
1住



1住-6



2住-4



2住-12、13



2 住



3 住-1



3 住-6



4 住-1



5 住-1



5 住-2



5 住-4



5住-6



5住-7



5住-8



6住-1



6住-5



8住-1



8住-2



10住-2



10住-1



11住-1



11住-3



11住-4



11住-5



13住-2



13住-1



15住-2



15住-5



15住-3



4土-2



4土-1



5土



10土-1



10土-2



b-35グリッド



g-20グリッド



表土

沼田西部地区遺跡群II

県営は場整備事業沼田西部地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 平成4年3月19日

編集・発行 沼田市教育委員会

〒378 群馬県沼田市西倉内町780番地

TEL(0278) 23-2111 (代)

印刷 有限会社コトブキ印刷

〒378 群馬県沼田市長沼町659番地2

TEL(0278) 22-5400

